

SERVICE MANUAL

サービス マニュアル

追 補 版

Jimny 660

V-JA11C

V-JA11V

NO. 2

SUZUKI

はじめに

このたび新発売しましたスズキジムニーターボ（JA11C，JA11V）は、本格派4WD車として好評を得てまいりましたが、今回平成2年度排出ガス規制に対応すると同時にマイナーチェンジを行い、より商品価値の高い4WD車として発売する運びとなりました。その主な変更点は次の通りです。

- ・ウォーターポンプ駆動をタイミングベルト駆動からVベルト駆動として、カップリングファン方式の採用によりメカロスを軽減し、出力の向上を図った。
- ・クーリングファン駆動にはカップリング方式を採用し、暖機性能を向上させた。
- ・EPIモニタコブラを4ピン型からアルト・セルボモードと同じ6ピン型に統一し、整備性の向上を図った。
- ・排ガスシステムは平成2年度排出ガス規制に対応させた。

発売にあたって、新機構及び変更点と点検整備の要領をまとめましたので、既発行の「サービスマニュアル ジムニー」と合わせてご熟読いただき、サービスマン各位の正確、迅速な実作業の手引きとしてご利用していただければ幸いです。

1991年6月
スズキ株式会社

参 考 資 料 名	品 番
サービスマニュアル ジムニー660 概要・整備	42-48400

- ・このマニュアルは、1991年6月現在の機種及び仕様を対象に点検整備の方法を記載しています。その後に機種が追加されたり、設計変更になった場合は追補版あるいはサービス部品ニュースを参照して下さい。尚、カーエアコンについては、各メーカー発行のエアコンニュースをご覧ください。
- ・この本に掲載している説明用の図や写真は、動作の原理や作業の要領を示したもので、実際の車両とは形状が異なる場合がありますのでご了承下さい。

目次	セクション
概要	0A
エンジン	1
エンジン機構	1A
エンジンクーリングシステム	1B
フューエルシステム	1C
EPI (電子制御式燃料噴射装置)	1E
イグニッションシステム	1F
クランキングシステム	1G
チャージングシステム	1H
エミッションコントロールシステム	1J
エキゾーストシステム	1K
ターボチャージャシステム	1L
トランスミッション	
マニユアルトランスミッション	2A
クラッチ	2C
トランスファ	2D
デファレンシャル (フロント&リヤ)	2E
フロントドライブアクスル	3A
プロペラシャフト	3B
リヤドライブアクスル	3C
ステアリング, サスペンション, ホイール&タイヤ	4
フロントホイールアライメント	4A
ステアリングギヤボックス	4B4
ステアリングホイール, コラム & シャフト	4C
フロントサスペンション	4D
リヤサスペンション	4E
ホイール及びタイヤ	4F
ブレーキ	5
ボデー	6
バンパ	7
ボデーエレクトリカル	8
ヒータ&エアコンディショナ	
ヒータ, ベンチレーション	9A
エアコンディショナ	9B
点検整備方式	10
サービスデータ	11
配線図	巻末

0A	3A
1	3B
1A	3C
1B	4
1C	4A
1E	4B4
1F	4C
1G	4D
1H	4E
1J	4F
1K	5
1L	6
2A	7
2C	8
2D	9A
2E	9B
	10
	11
	巻末

本書は [] のセクションのみ記載しています。

セクション 0A

概 要
目 次

車両外観	0A-2
外観四面図	0A-4
車種構成	0A-6
車体色一覧	0A-6
主要諸元	0A-7
主要装備品一覧	0A-8
エンジン性能曲線図	0A-10
走行性能曲線図	0A-10
車両の識別	0A-12
エンジンの識別	0A-12

車両外観

JA11C



JA11V (標準ルーフ)

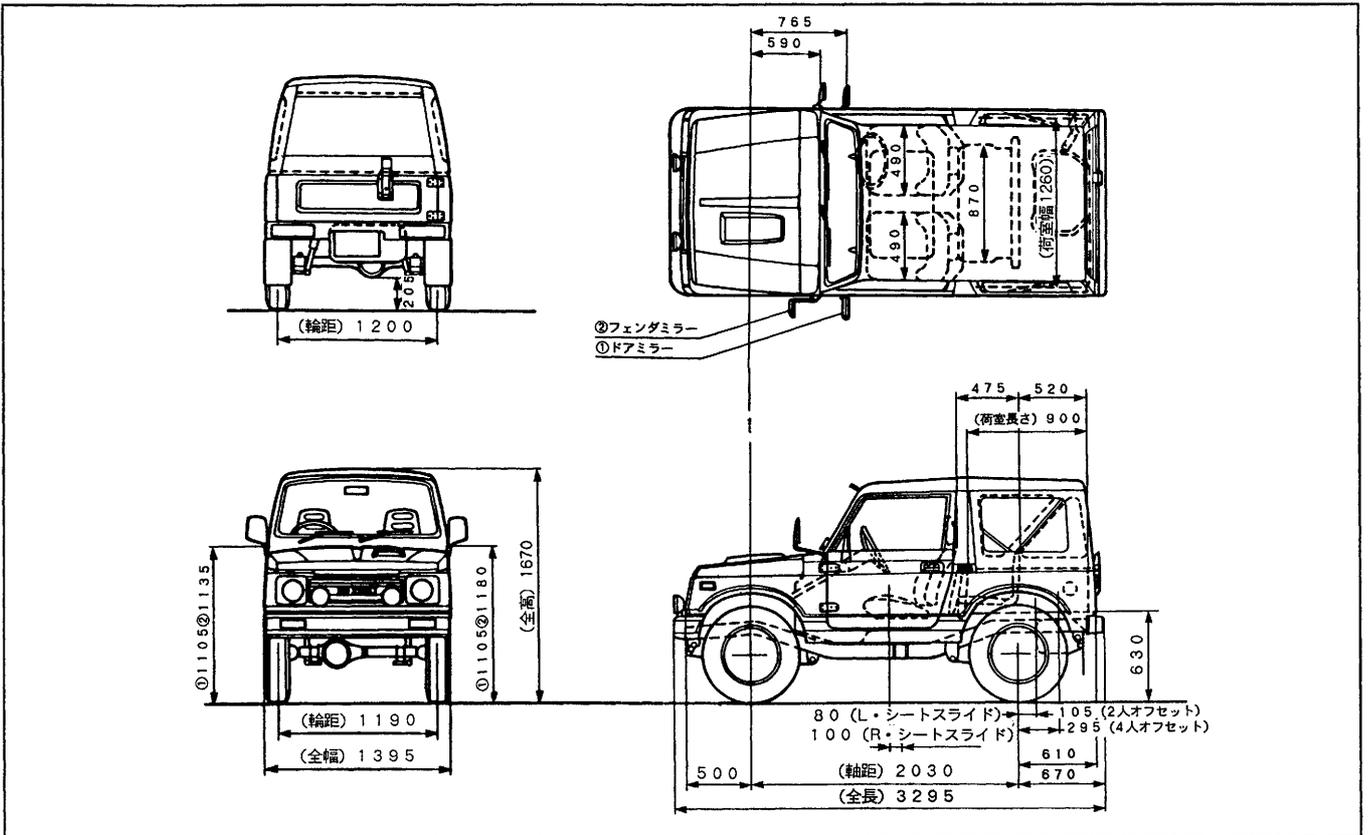


JA11V (パノラミックルーフ)

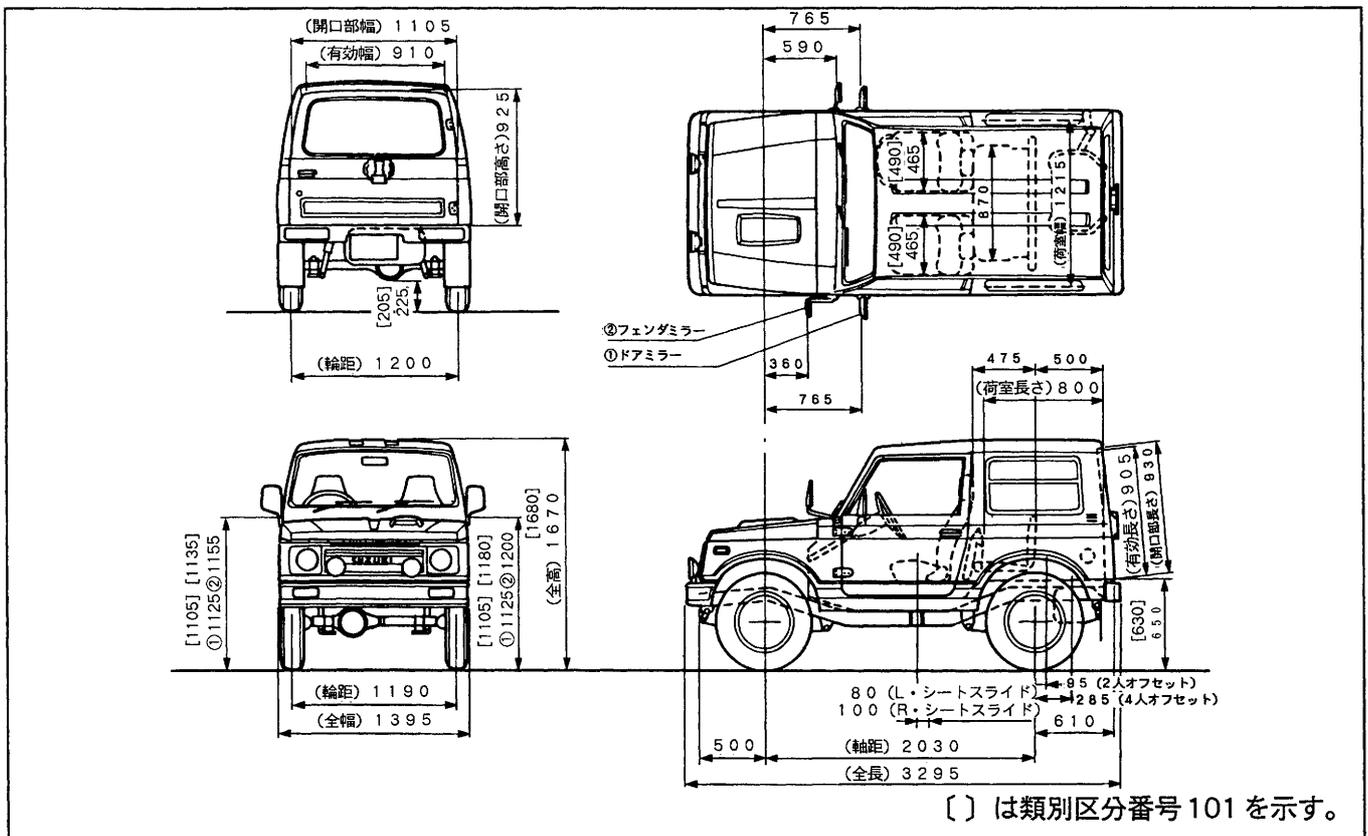


外観四面図

JA11C

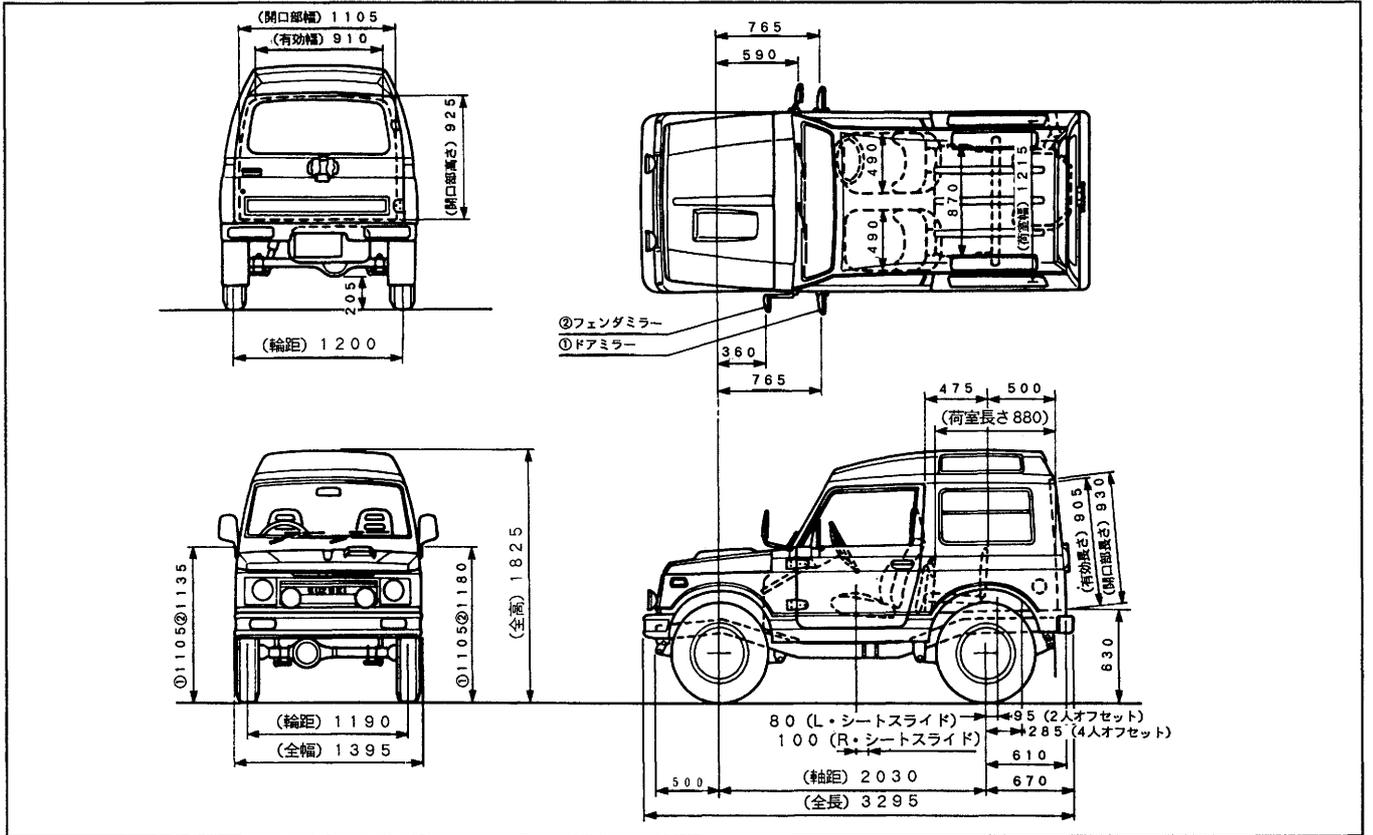


JA11V (標準ルーフ)



[] は類別区分番号101を示す。

JA11V (パノラミックルーフ)



車種構成

通称名	型式	原動機型式	機種番号	類別区分番号	備 考	
ジムニー ターボ	V-JA11C	F6A	JCCU	101	フルメタルドア	インタークーラ付
ジムニー バンターボ	V-JA11V		JHCU	101	標準ルーフ	
			JHAU	001		
			JECU	201	パノラミックルーフ	

車体色一覧

車 体 色 名		スペリアホワイト	チャコールグレー メタリック	トリトンブルー メタリック
色 記 号		26U	38B	1FH
塗 料 メ ー カ ー		関西ペイント	日本ペイント	関西ペイント
JA11C	JCCU	○		○
JA11V	JHCU	○	○	○
	JHAU	○		
	JECU	○	○	○

 は新色を示す。

主要諸元

項目		機種	JA11C	JA11V		
		JCCU	JHCU	JHAU	JECU	
指 定 番 号			6823	6824	←	←
類 別 区 分 番 号			101	101	001	201
車 名 及 び 型 式			スズキV-JA11C	スズキV-JA11V	←	←
自 動 車 の 種 別			軽(四輪)	←	←	←
用 途			貨物	←	←	←
車 体 の 形 状			ボンネット	バン	←	←
軸 距 (m)			2.030	←	←	←
原 動 機 の 型 式			F6A	←	←	←
総 排 気 量 (ℓ)			0.657	←	←	←
長 さ (m)			3.295	←	←	←
幅 (m)			1.395	←	←	←
高 さ (m)			1.670	1.680	1.700	1.825
輪 距	前 輪 (m)		1.190	←	←	←
	後 輪 (m)		1.200	←	←	←
室内又は荷台 の内側の寸法	長 さ (m)		0.900 (0.520)	0.880 (0.500)	←	←
	幅 (m)		1.260 (1.260)	1.215 (1.215)	←	←
	高 さ (m)		1.020 (1.020)	1.045 (1.045)	←	1.180 (1.180)
荷 台 の オ フ セ ッ ト (m)			-0.105 (-0.295)	-0.095 (-0.285)	←	←
車 両 重 量	前 軸 重 (kg)		450	450	←	←
	後 軸 重 (kg)		380	410	←	420
	計 (kg)		830	860	←	870
乗 車 定 員 (人)			2 (4)	←	←	←
最 大 積 載 量 (kg)			250 (150)	200 (100)	←	←
車 両 総 重 量	前 軸 重 (kg)		490 (490)	490 (500)	←	←
	後 軸 重 (kg)		700 (710)	680 (680)	←	690 (690)
	計 (kg)		1,190 (1,200)	1,170 (1,180)	←	1,180 (1,190)
最 大 安 定 傾 斜 角 度	左 (°)		47	45	44	43
	右 (°)		45	43	42	41
タ イ ヤ			175/80R16 91Q	←	6.00-16-4PR	175/80R16 91Q

主要装備品一覧

車種	バン JHCU	バン JHAU	パラミックル-JJECU	フルメタルJCCU
----	---------	---------	--------------	-----------

インストルメントパネル

V.G.R.(バリアブル・ギヤ・レシオ) ステアリング	●	●	●	●
3本スポークステアリングホイール	●	●	●	●
電子チューニング式AMラジオ(デジタルロック付)	●	-	●	●
タコメーター	●	-	●	●
トリップメーター	●	-	●	●
シガライター	●	-	●	●
メーターパネル照明	透過	間接	透過	透過
空調コントロールパネル照明	●	●	●	●
4WDインジケーター	●	●	●	●
ターボインジケーター	●	-	●	●
バイレベル式5モードヒータ	●	●	●	●
センター・サイドベンチレーター	●	●	●	●
サイドデフロスター	●	●	●	●
ステアリングロック	●	●	●	●

インテリア

サイド兼用サンバイザー	両側	運転席側	両側	両側
サンバイザーチケットホルダ(運転席側)	●	●	●	●
アッシュトレイ	●照明付	●	●照明付	●照明付
3ポジションルームランプ	●	●	●	●
アシスタントグリップ	前:1, 後:2	前:1, 後:2	前:1, 後:2	-
インパネアシスタントグリップ	●	●	●	●
フロントドアアッパートリム	●	-	●	●
フロントドアトリム	部分ファブリック	塩ビ	部分ファブリック	パッドウェルダ
リヤサイドトリム	パッドウェルダ	塩ビ	パッドウェルダ	塩ビ
サイドブレーキカバー	●	-	●	-
フロア/ラゲッジカーペット	ニードルパチ/ニードルパチ	塩ビ/-	ニードルパチ/ニードルパチ	塩ビ/-
ルームランプドアスイッチ	運転席	運転席	運転席	運転席

シート

シート表皮	フルファブリック	ビニールレザー	フルファブリック	フロントビニールレザー
ヘッドレスト	分離式	一体式	分離式	分離式
フロントシートスライド&リクライニング	●	●	●	●
助手席ウォークイン機構	●	●	●	●
ELRフロントシートベルト	●	●	●	●

車 種	バン JHCU	バン JHAU	パノラミックルーフJECU	フルメタルドアJCCU
-----	---------	---------	---------------	-------------

ポケットリア

インパネミニボックス	●	●	●	●
コインボックス	●	●	●	●
グローブボックス	●	●	●	●
アンダートレイ	●	●	●	●

エクステリア

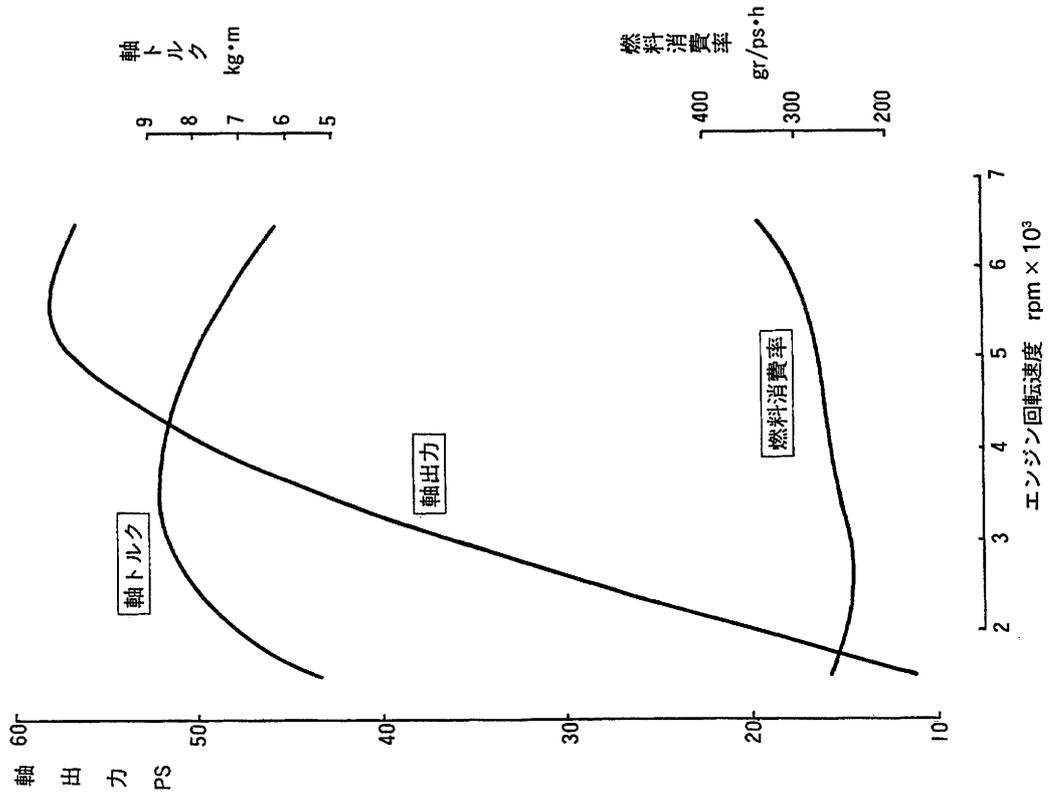
ハロゲンヘッドランプ	●	—	●	●
フォグランプ	●	—	●	●
間欠ワイパ	●	●	●	●
熱線入りバックウインドガラス	●	●	●	—
リヤマッドフラップ	●	—	●	●
サイドストライプテープ	●	—	●	●
接着フロントウインドーガラス	●	●	●	—

セイフティ・その他

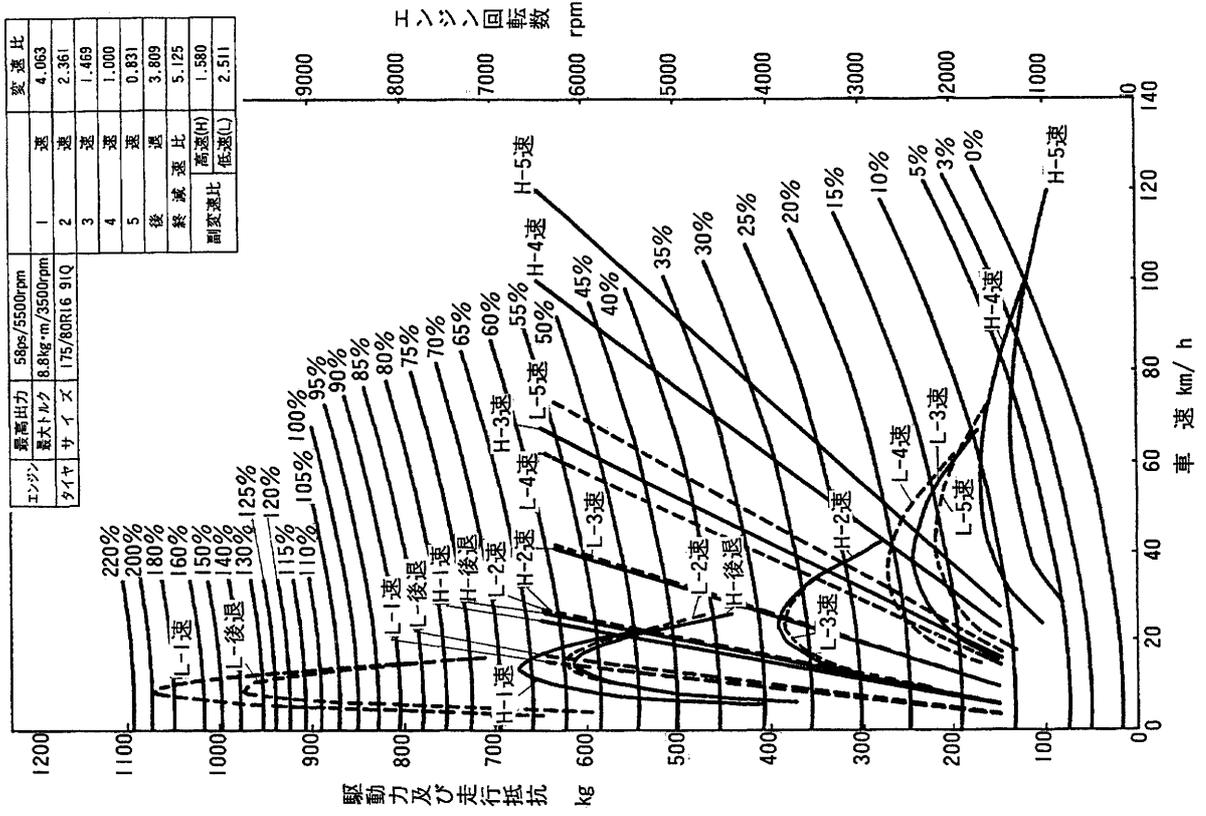
温水式オートチョーク機構	●	●	●	●
フロントディスクブレーキ	●	●	●	●
バキュームサーボ（制動倍力装置）	●	●	●	●
フリーホイールハブ	●	●	●	●
パーキングブレーキロック	—	—	—	●
ダブルホーン	●	—	●	●
5本スポークホイール	●	—	●	●
タイヤ	ラジアルタイヤ	リブタイヤ	ラジアルタイヤ	ラジアルタイヤ

※ 速度警報装置は、注文仕様となります。

エンジン性能曲線図
F6A型

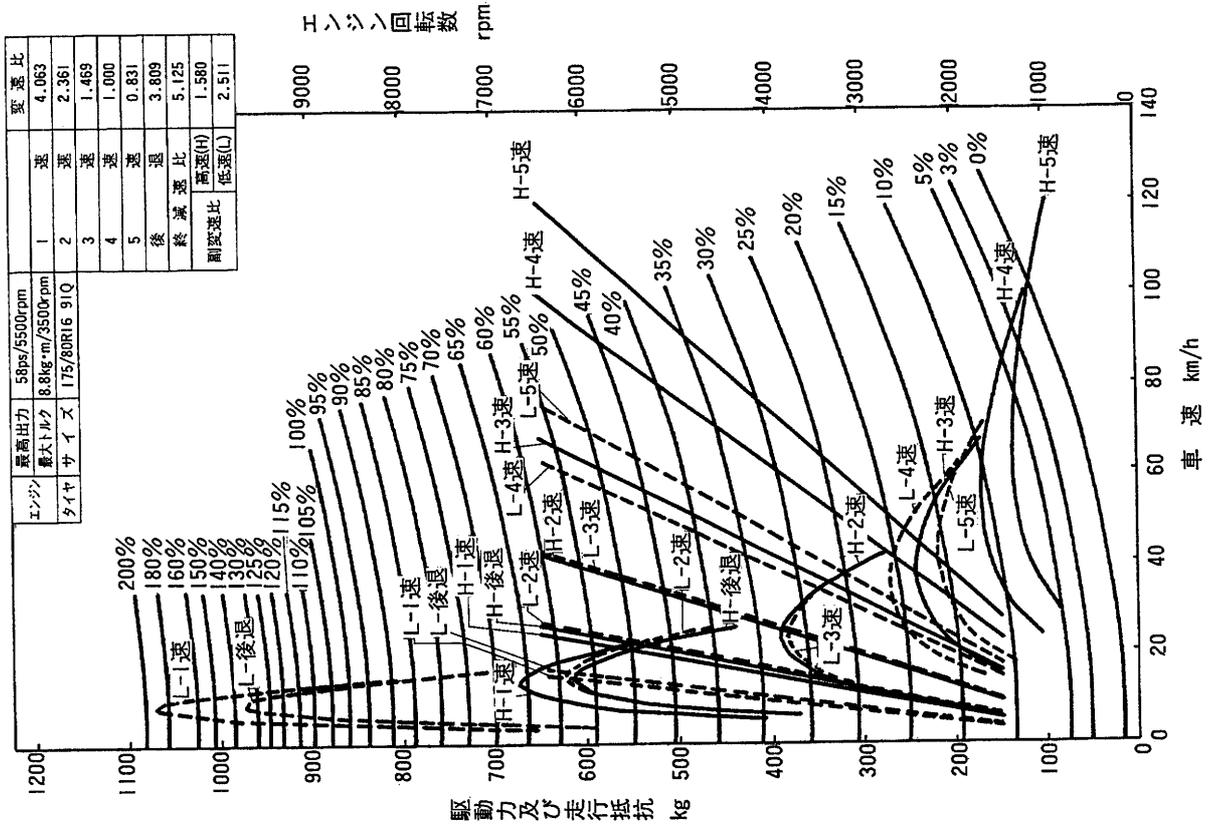


走行性能曲線図
JCCU

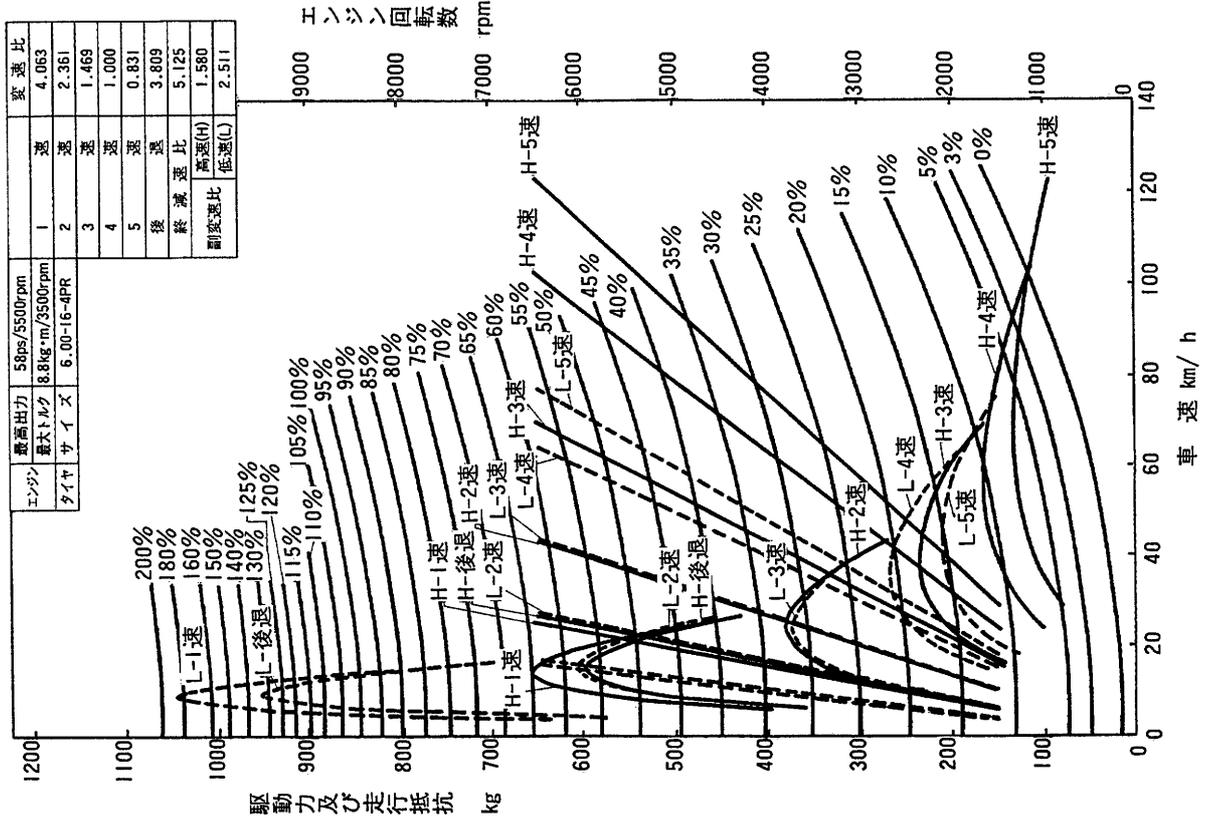


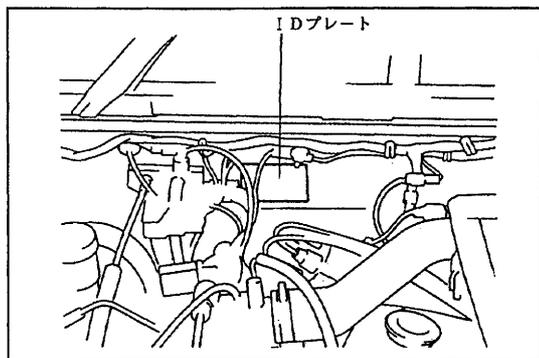
走行性能曲線図

JHCU, JECU



JHAU





車両の識別

車台番号

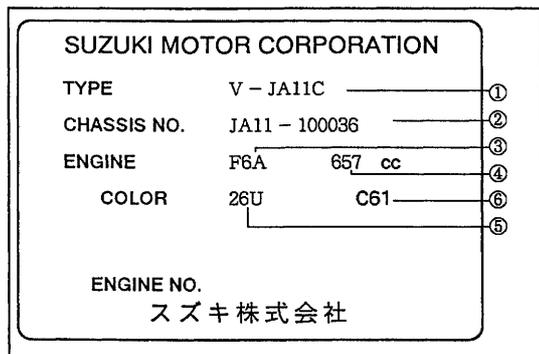
打刻位置……フロント右側タイヤハウジング内のフレーム側面

車台開始番号

JA11-150001

IDプレート

貼付位置……エンジンルーム内ダッシュパネル上面

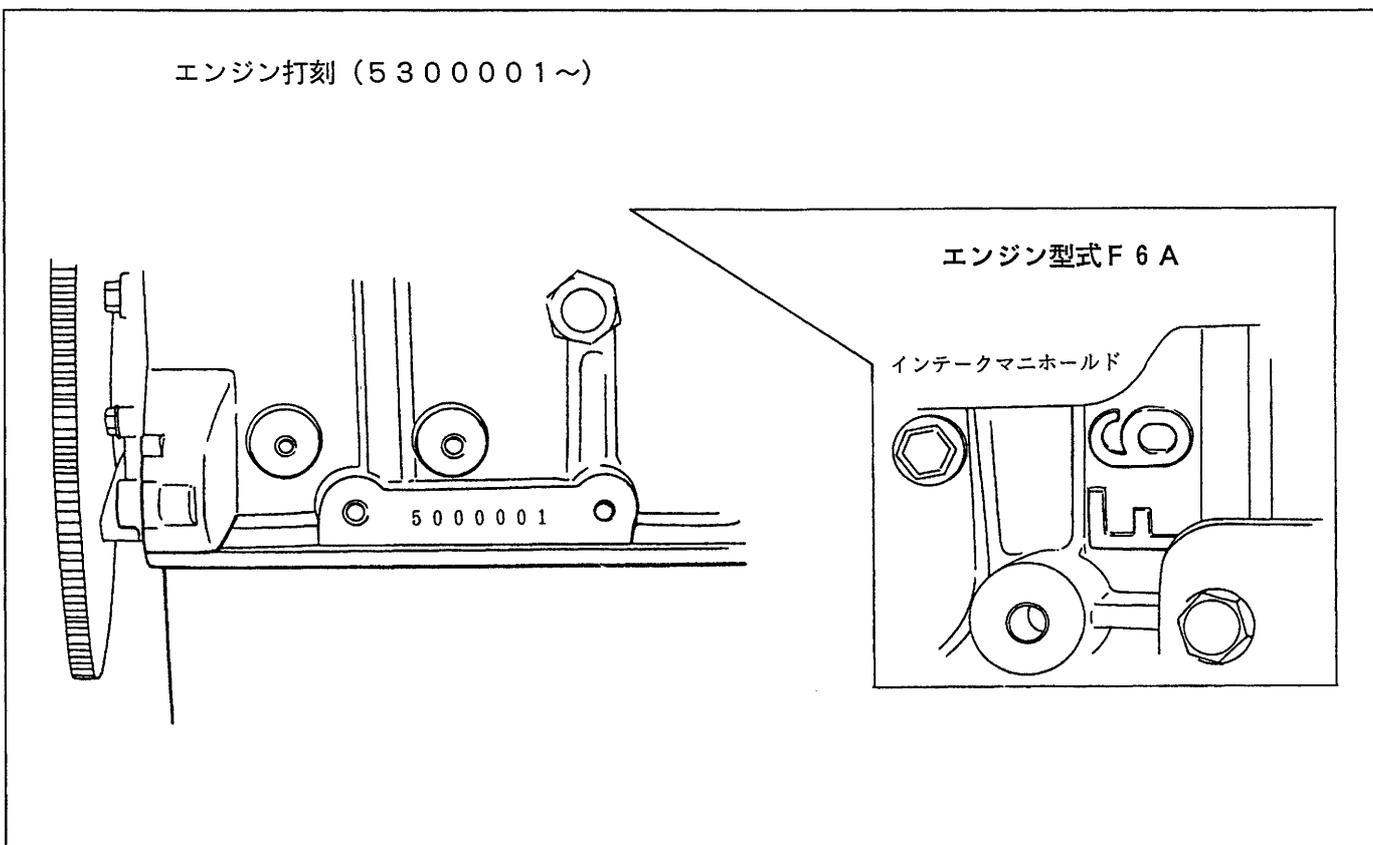


- ①……車両型式
- ②……車台番号
- ③……原動機型式
- ④……総排気量
- ⑤……車体色記号
- ⑥……車体色と内装色の組合せコード

エンジンの識別

エンジン、トランスミッションの識別番号は次の位置に表示されている。

エンジン打刻 (5300001~)



セクション 1A

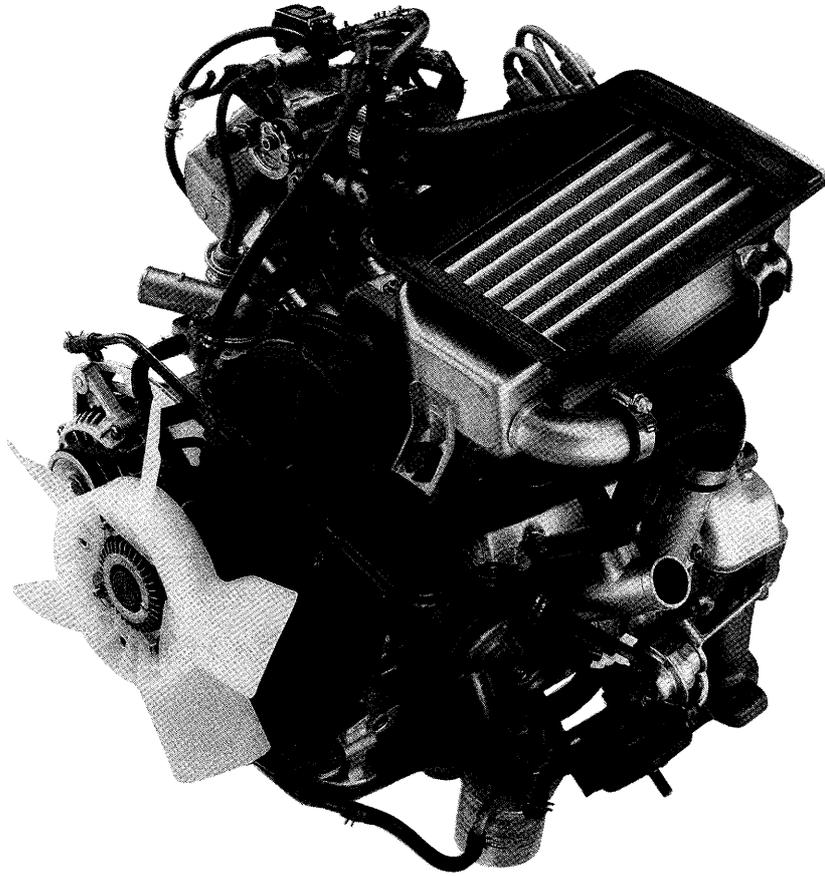
エンジン機構

概 説

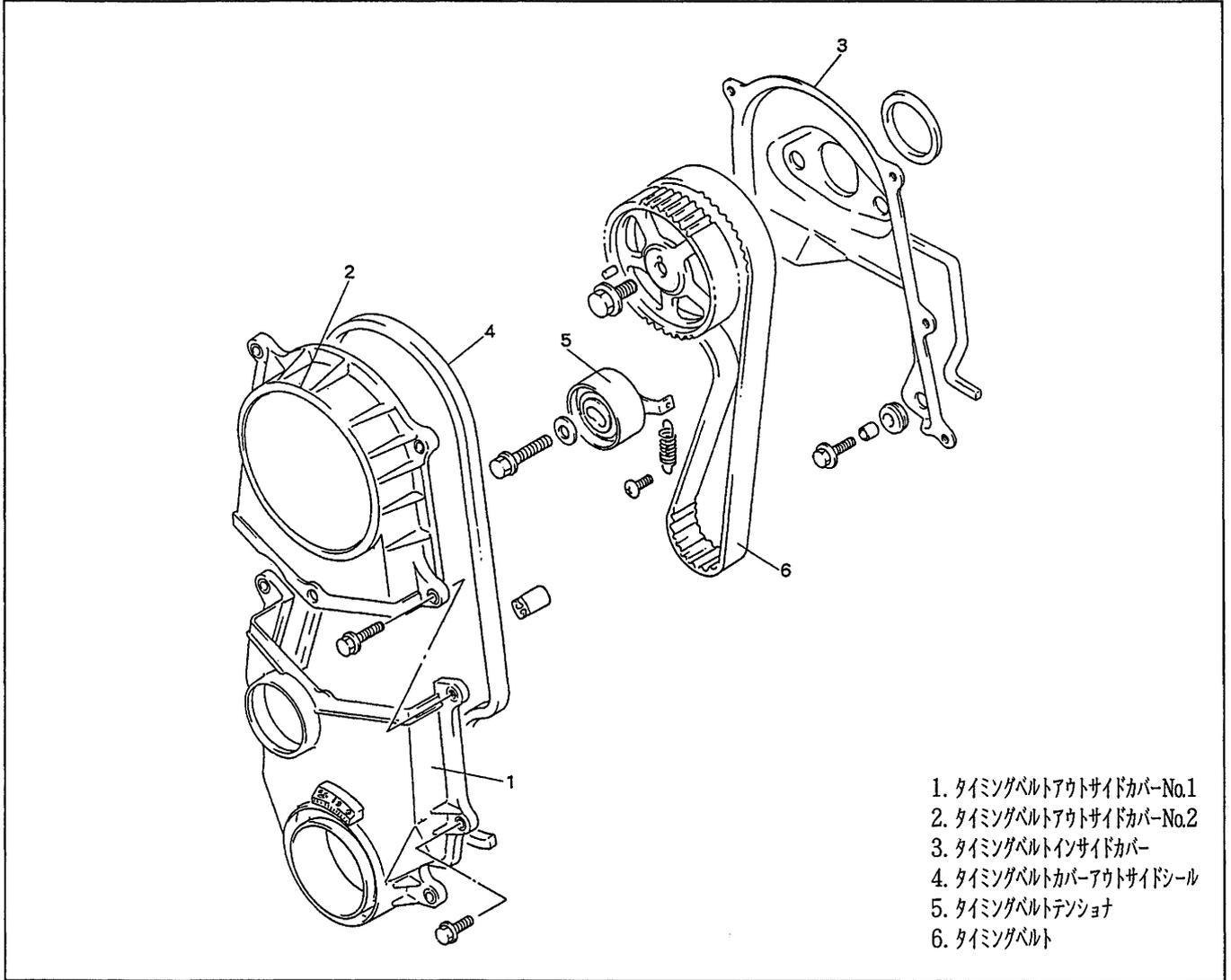
エンジン

エンジンは、4サイクル、水冷3気筒、総排気量657cc（ボアストローク65.0×66.0mm）のF6A型、最高出力58PS/5500rpm、最大トルク8.8kgm/3500rpm。

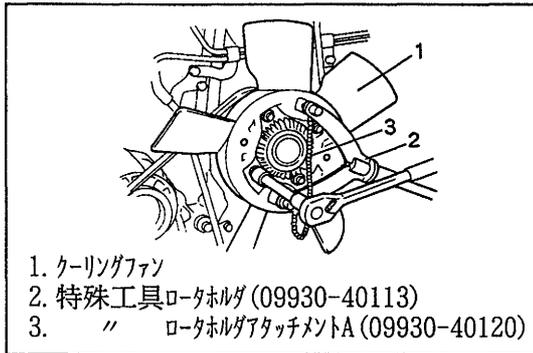
ウォーターポンプの駆動方式を従来のタイミングベルト駆動方式から、カップリングを使用したVベルト駆動方式に変更した。これにより、メカロスの軽減を行い出力アップを可能にした。



タイミングベルト, テンショナ



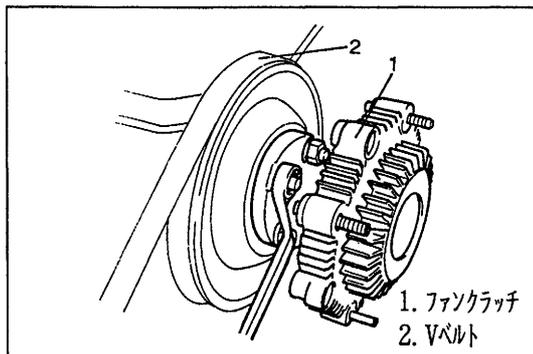
1. タイミングベルトアウトサイドカバー-No.1
2. タイミングベルトアウトサイドカバー-No.2
3. タイミングベルトインサイドカバー
4. タイミングベルトカバーアウトサイドシール
5. タイミングベルトテンショナ
6. タイミングベルト



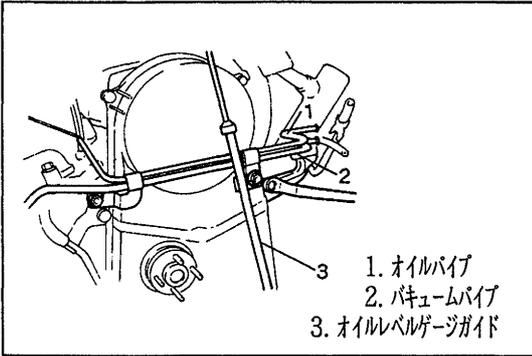
1. クーリングファン
2. 特殊工具ロータホルダ (09930-40113)
3. " ロータホルダアタッチメントA (09930-40120)

取外し

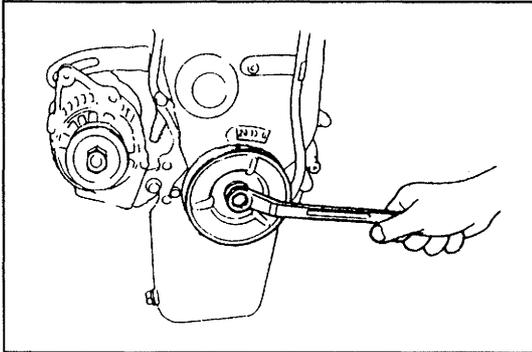
1. クーリングファンを取り外す。



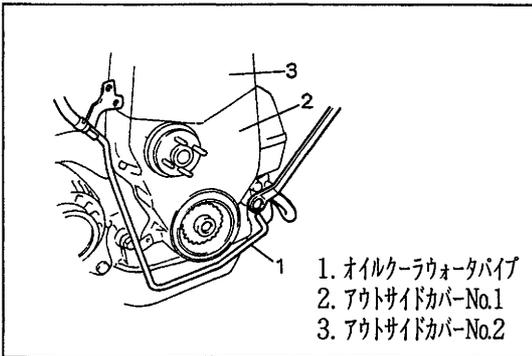
2. ファンクラッチを取り外す。
3. Vベルトを取り外す。



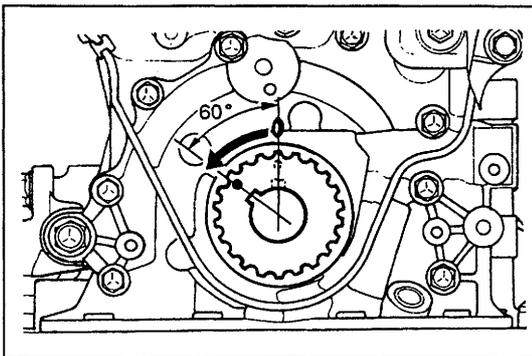
4. オイルパイプ, バキュームパイプ, オイルレベルゲージガイドを取り外す。



5. クランクプーリを回し, 第1気筒を上死点に合わせて。
6. クランクプーリを取り外す。



7. オイルクーラウォータパイプを取り外す。
8. アウトサイドカバーNo.1, No.2を取り外す。
9. タイミングベルトテンショナを取り外す。
10. タイミングベルトを取り外す。



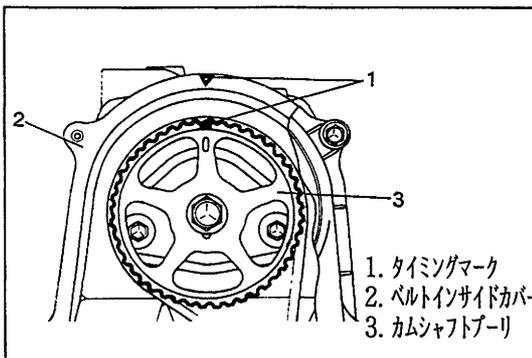
注意: タイミングベルトを外した時は, クランクシャフト及びカムシャフトを絶対に回さないこと。もしカムシャフトを回す場合は, クランクシャフトをタイミングマークより左回転方向60° ± 10° 回した状態で行なうこと。

点検

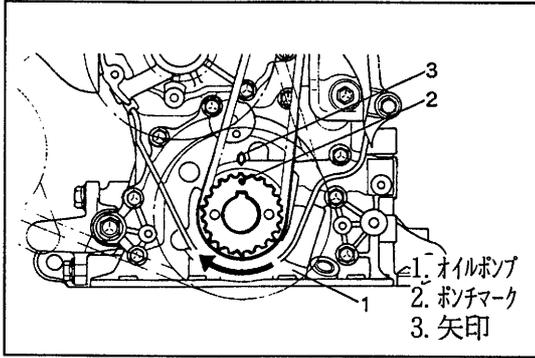
- ・タイミングベルトに摩耗, 割れがないか点検し, もしあれば交換する。
- ・テンショナがスムーズに作動するか点検する。

取付け

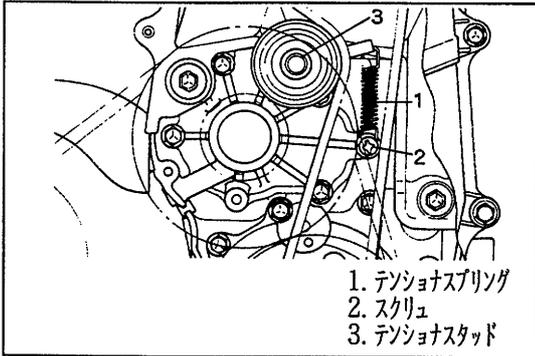
取り外しの逆の手順で行なうが, 次の点に注意する。



- ・バルブのつき上げ防止, タイミングベルトを張るため, あらかじめロッカーアームアジャストスクリューを十分緩めておく。
- ・カムシャフトプーリ上のタイミングマークをベルトインサイドカバーのタイミングマークに合わせる。

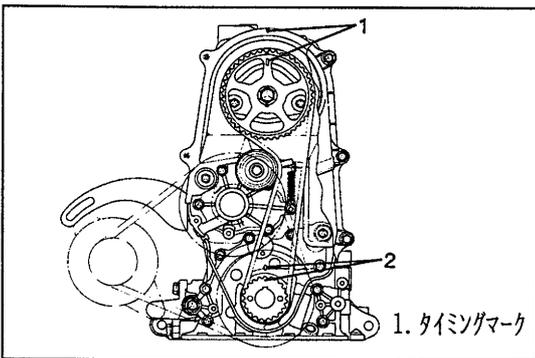


- ・ クランクシャフトを回し、プーリ上のポンチマークをオイルポンプ上の矢印と合せる。



- ・ タイミングベルトを作動側に緩みが出来ないように取り付け。テンショナスプリングをスクリュに取り付け、テンショナスタッドを取り付けて、手でボルトを仮止めする。

注意：タイミングベルトを取り付ける時は、ベルトの矢印(→)がクランクシャフトの回転方向(右回転)に合うようにする。又、水、油等の付着及び折り曲げは厳禁。

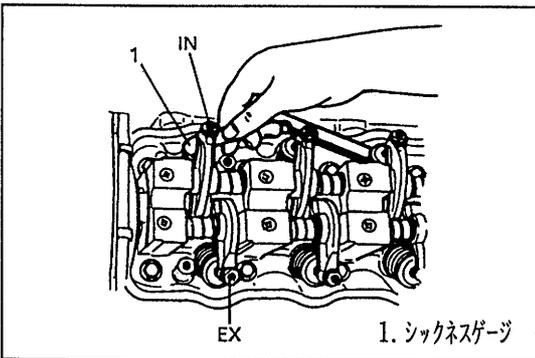


- ・ タイミングベルトを取り付け、クランクシャフトを右に2回転以上回転させてベルトの緩みを取り、各タイミングマークが合っているか再確認し、テンショナボルトを規定のトルクで締め付ける。

テンショナボルト締め付トルク (kg・cm) : 150~230

クランクプーリ締め付トルク (kg・cm) : 800~900

ファンクラッチ締め付トルク (kg・cm) : 90~120



- ・ インテーク、エキゾーストバルブクリアランスを調整する。

セクション 1B

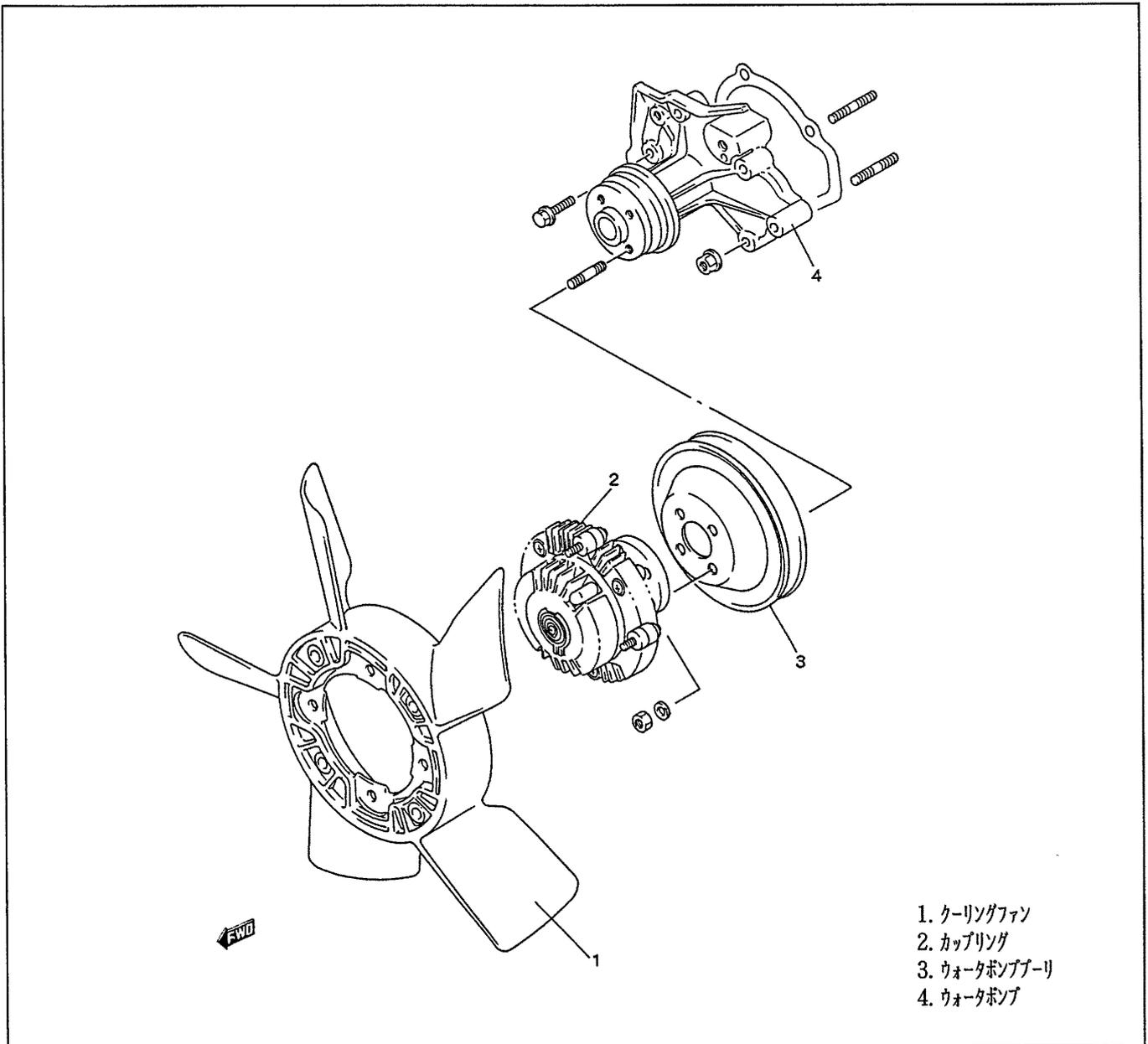
エンジンクーリングシステム

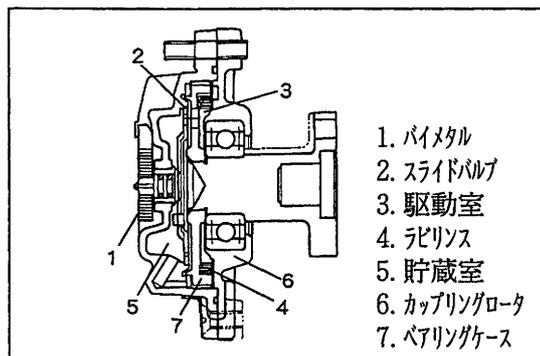
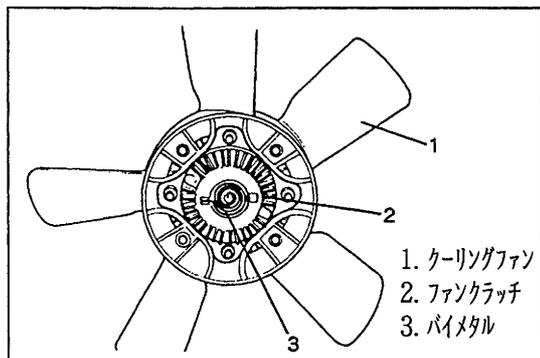
目次

概説1B-1
ファンクラッチ1B-2
車上整備1B-2
ウォータポンプベルト張力の調整1B-2
クーリングファン, クラッチ1B-3
ウォータポンプ1B-3

概説

カップリングファン方式の採用により, 暖機時間の短縮が可能となった。又, ファンの羽枚数を6枚から5枚に変更し, ファンによる騒音の低減を実現した。





ファンクラッチ

ファンクラッチはファンの回転速度をラジエータ通過後の空気温度によって自動的に制御するためのものであり、ファンクラッチを使用することによる利点は次のような点があげられる。

1. ファンに消費される動力の低減。
2. エンジンが適温に達するまでの暖機時間の短縮。
3. ファンによる騒音の低下。

作動

<高温時>ラジエータを通過した空気温度をバイメタルが感知して、温度が上昇すると、バイメタルと一体となっているスライドバルブが動き流入孔を開き、シリコンオイルが駆動室に入り、遠心力によってラビリンスを満たし、その粘性によって回転トルクがカップリングロータからベアリングケースに伝えられファンの回転速度が高くなる。

<低温時>ラジエータを通過した空気温度が下がるとスライドバルブが閉じ、ラビリンス内のシリコンオイルは遠心力によって排出孔から貯蔵室に送られる。ラビリンス内のシリコンオイルが少なくなると、ベアリングケースに伝わるトルクが減少して、ファンの回転速度は低くなる。

車上整備

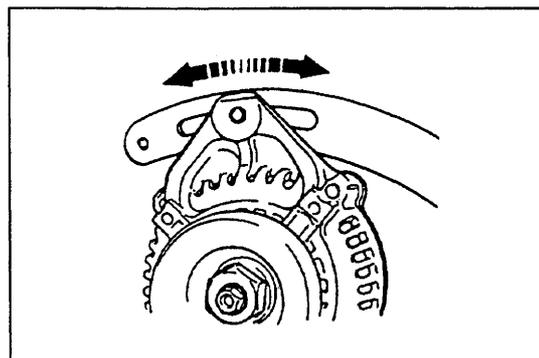
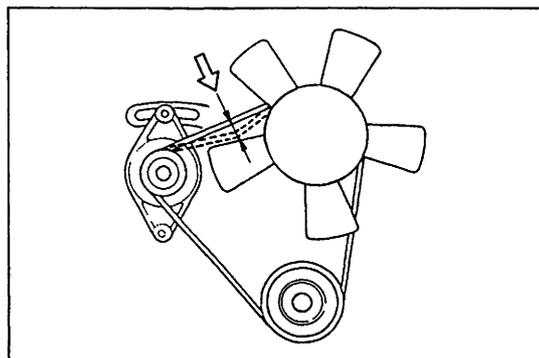
ウォーターポンプベルト張力の調整

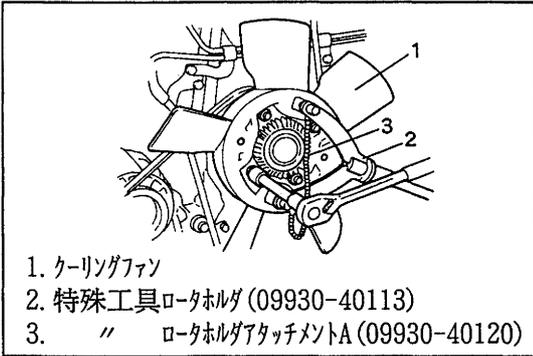
注意：バッテリーの⊖端子を外してから、ベルトの張力点検、調整を行う。

1. ベルトに割れ、切傷、歪み、摩耗、汚れがないか点検し、必要があればベルトを交換する。
2. オルタネータプーリとウォーターポンププーリの中央でベルトを10kgの方で押した時、ベルトが下記値でたわむこと。

ベルトのたわみ (mm)	新品	8~10
	再使用	9~12

3. ベルトがきつすぎたり緩んでいたりしたら、オルタネータの位置を変えて正しい張力に調整する。
4. バッテリーの⊖端子を接続する。

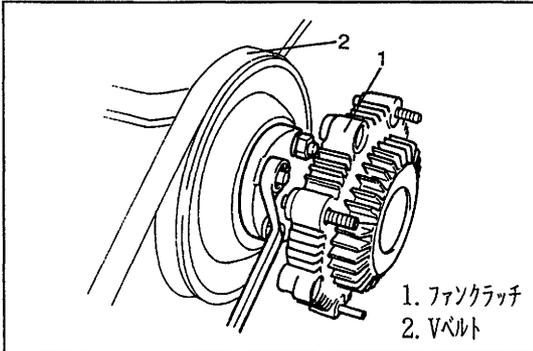




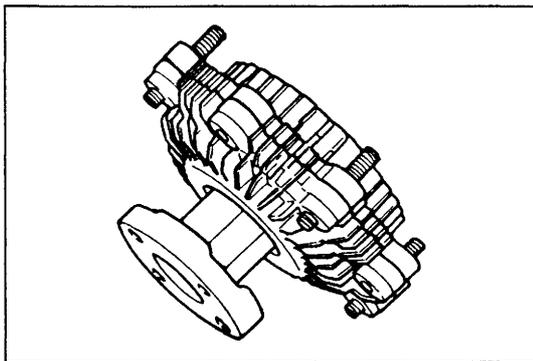
クーリングファン, ファンクラッチ

取外し

1. バッテリーの⊖端子を取り外す。
2. ラジエータシュラウドの取り付けボルト (4本) とクーリングファン取り付けボルト (4本) を取り外す。



3. ファンクラッチを取り外す。
4. Vベルトを取り外す。

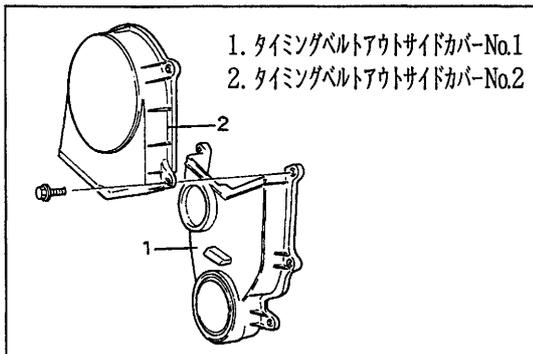


点検

フルードカップリングにオイル洩れがないか点検し、もしあればファンクラッチを交換する。ファンクラッチは分解修理しないこと。

取付け

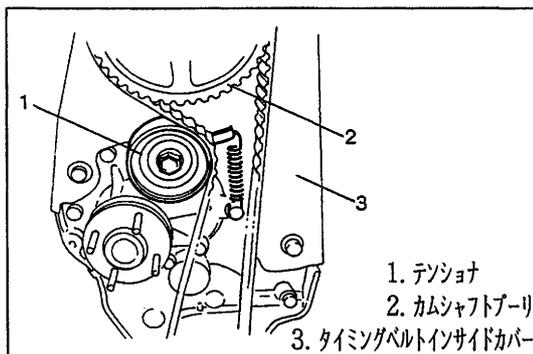
先に外した部品を、取り外しと逆の手順で取りつける。取り付け後は、ベルトを規定の張力に調整し、各ボルト・ナットをしっかりと締めつける。



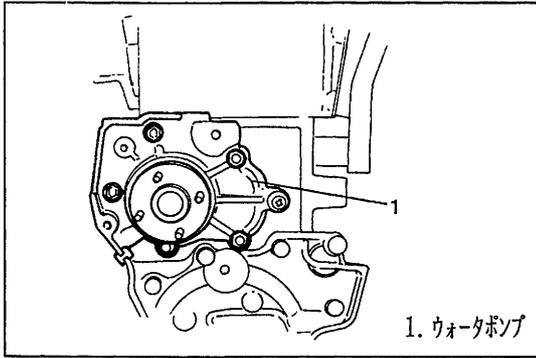
ウォーターポンプ

取外し

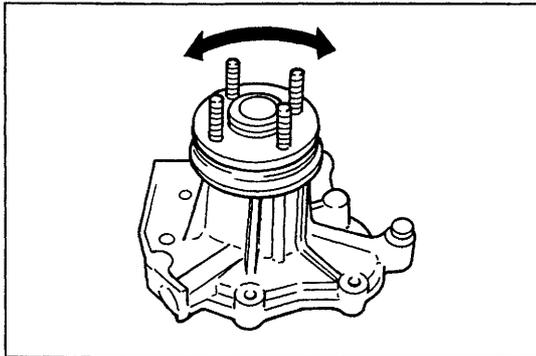
1. バッテリーの⊖端子を取り外す。
2. 冷却水を抜く。
3. クーリングファンを取り外す。
4. ファンクラッチを取り外す。(前述参照)
5. Vベルトを外す。
6. クランクプーリを取り外す。
7. タイミングベルトアウトサイドカバー No.1, No.2



8. テンショナとタイミングベルトを取り外す。
9. カムシャフトプーリを取り外す。
10. タイミングベルトインサイドカバーを取り外す。

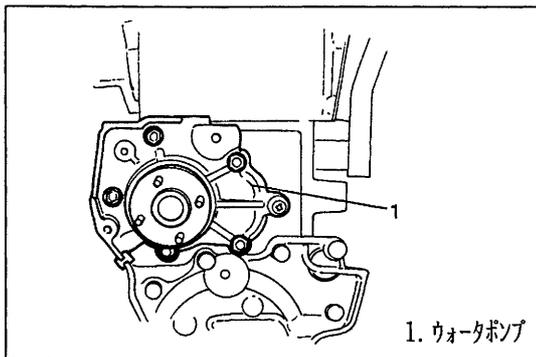


11. ウォータポンプを取り外す。



点検

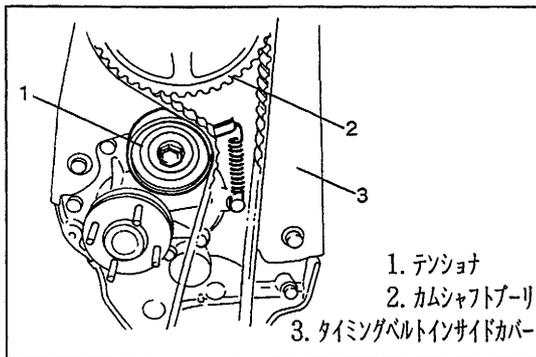
- 注意：
- ・ウォータポンプを分解修理しないこと。ポンプが故障したら、新しいものと交換する。
 - ・ウォームポンプを手で回してみ、スムーズに回せなかったり、異音がする場合は交換する。



取付け

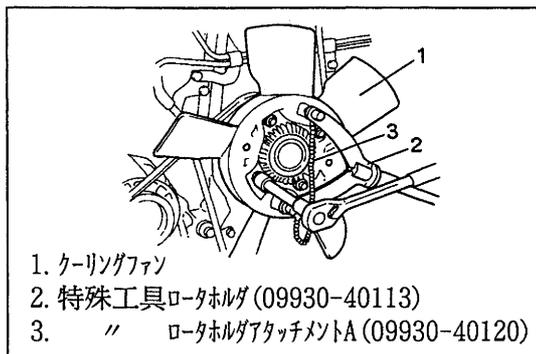
1. 新しいポンプガスケットをシリンダブロックに取り付ける。
2. ウォータポンプをシリンダブロックに取り付ける。

ボルト&ナット締付トルク (kg・cm) : 100~130
 ウォータポンプとオイルポンプの間にラバーシールを取り付ける。



3. タイミングベルトインサイドカバー、カムシャフトプーリを取り付ける。
4. ベルトテンショナ、タイミングベルト、タイミングベルトアウトサイドカバー No.1, No.2を取り付ける。

注意：ベルトテンショナとタイミングベルトは前述をセクション 1A を参照して特に注意して取り付けること。又、各ボルト&ナットを規定のトルクで締め付ける。



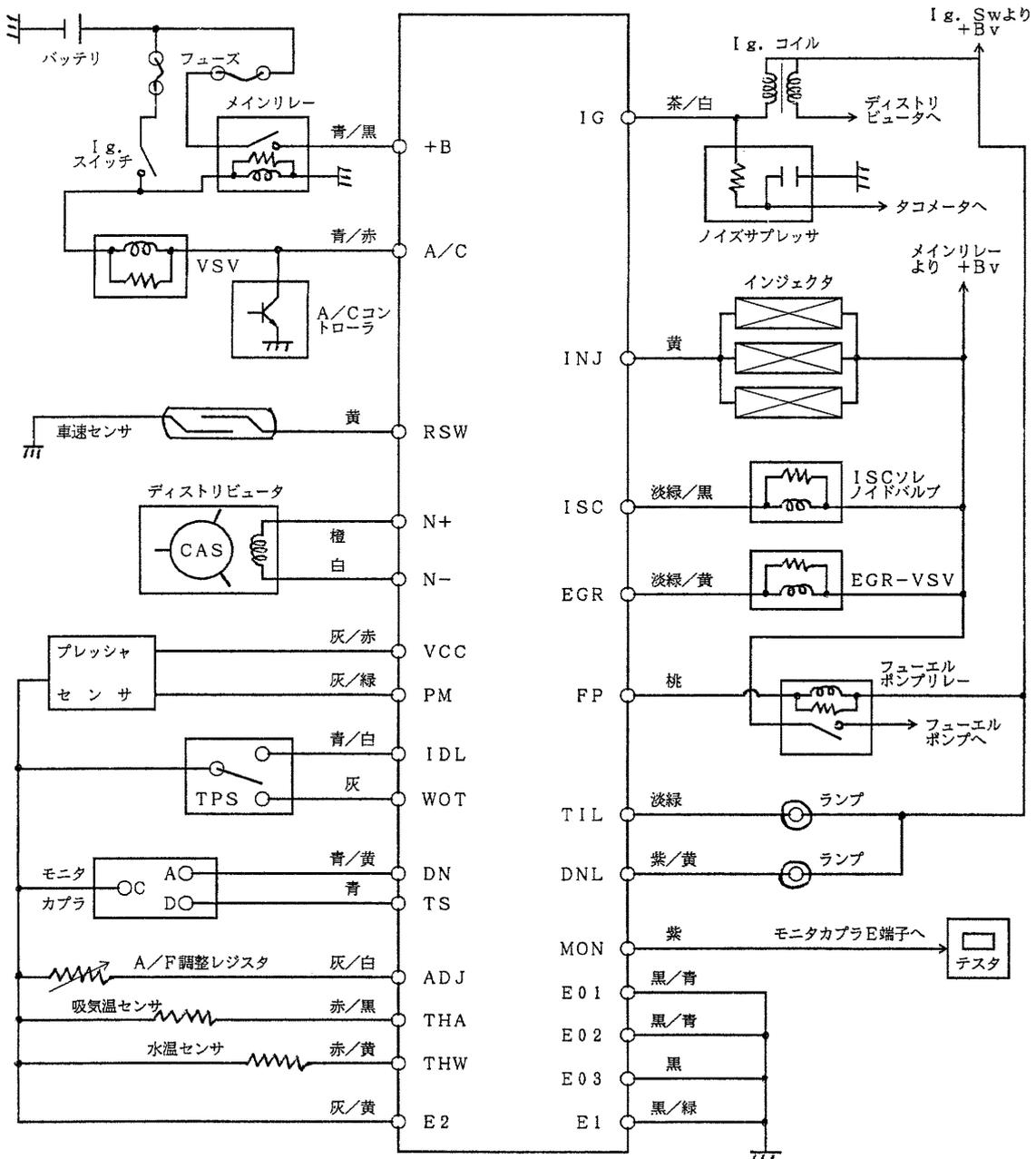
5. クランクシャフトプーリ、ウォータポンププーリ、ファンクラッチを取り付ける。
6. Vベルトを取り付ける。(前述参照)
7. クーリングファンを取り付ける。
8. バッテリーの⊖端子を接続する。
9. 冷却水を補給する。
10. 取り付け後、各部に漏れがないか点検する。

セクション 1E

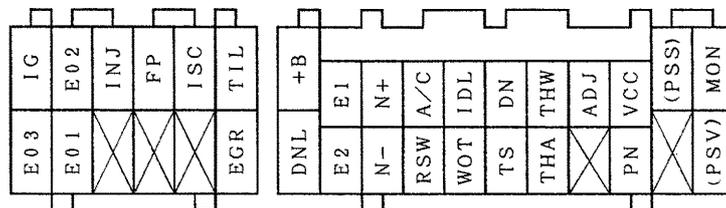
EPI (電子制御燃料噴射装置)

概要

モニタカプラを4ピン型カプラから、アルト・セルボモードと同じタイプ (6ピン型) に変更し整備性を向上させた。



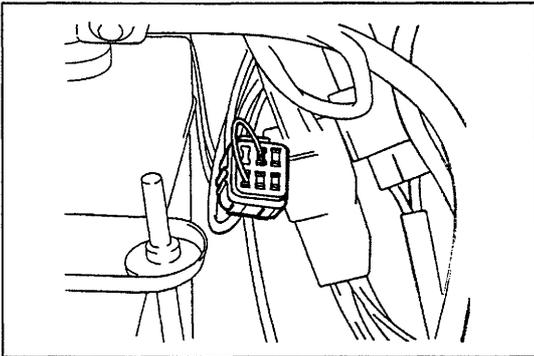
ECM カプラ端子 (ECM を外から見た場合を示す。)



セルフダイアグノシスの点検

EPIシステムのコントロールモジュールには、各センサからの入力信号に異常が発生したとき、これを表示する自己診断機能があり、エンジンルーム右側のダイアグノーシスモニタ端子を短絡するとスピードメータ上のダイアグモニタランプを点滅することにより、異常箇所を知ることができる。

EPIシステムの故障診断は、まず最初にこのセルフダイアグノシスの点検を行うこと。



点検の手順

1. ダイアグランプが点灯するまで、走行テストを行う。
2. イグニッションスイッチをOFFにしないうちにモニタプラのA-C端子間を短絡する。
3. ダイアグコードを読み取る。

表示コード

診断項目	コード番号	点滅	点検箇所
正 常	12		—————
水温センサ信号系統	14		・水温センサ ・ワイヤリングハーネス
スロットルセンサ (IDL) 信号系統	21		・スロットルセンサ ・ワイヤリングハーネス
スロットルセンサ 信号系統	22		・スロットルセンサ ・ワイヤリングハーネス
吸気温センサ 信号系統	23		吸気温センサ ・ワイヤリングハーネス
車速センサ信号系統	24		・車速センサ ・ワイヤリングハーネス
圧力センサ信号系統	31		・圧力センサ ・ワイヤリングハーネス
Ig.1次コイル信号系統	41		・イグニッションコイル
クランク角センサ 信号系統	42		・クランク角センサ
A / C 信号系統	56		—————

車上整備

アイドル調整 (CO 調整)

4輪サービス・部品ニュース

1. ラジエータアップホースが熱くなるまで暖機運転を行う。
2. アイドリング回転が規定値であるか確認する。

アイドルリング回転数 (rpm) : 950 ± 50

上記の範囲外の場合は、範囲内に納まるように、アイドルアジャストスクリューで調整する。

3. ダイアグノーシスモニタカプラのD端子をC端子に短絡する。(イニシャル点火制御になる)
4. タイミングライトのピックアップ部を第1気筒のハイテンションコードに取り付け、点火時期を点検する。

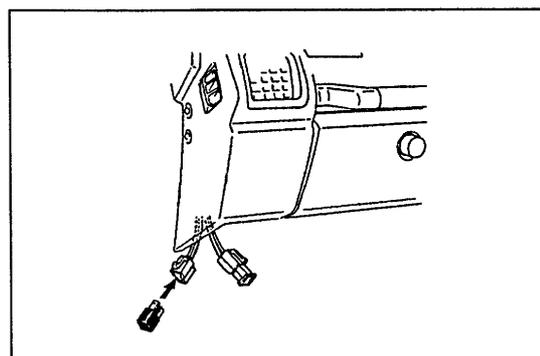
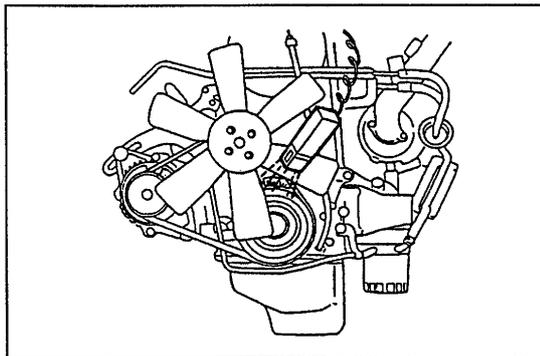
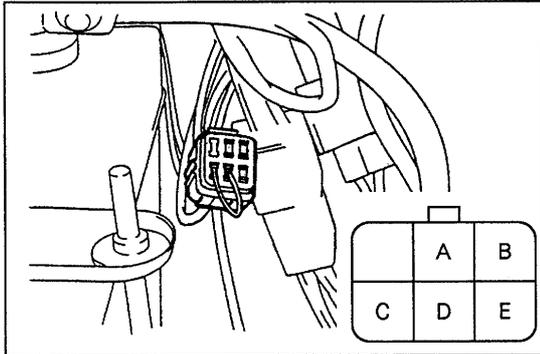
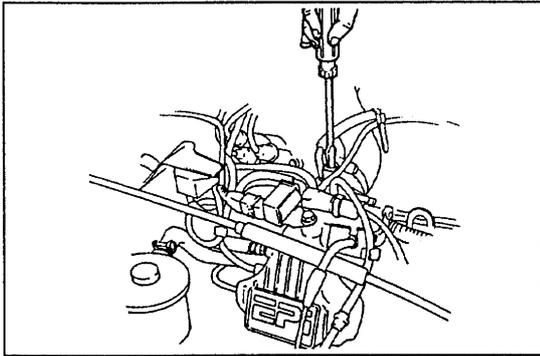
イニシャル点火時期 (° /rpm) : 5 / 950

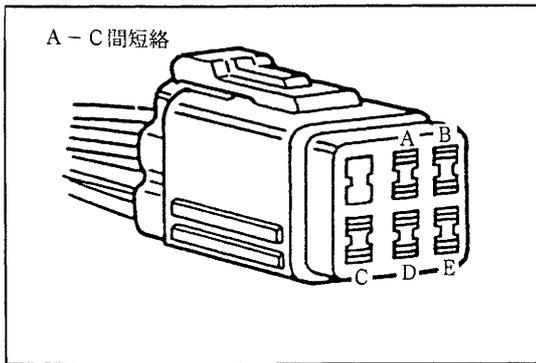
5. 点火時期が狂っている時は、ディストリビュータクランプボルト (トルクスボルト T40) を緩めて、ディストリビュータ本体を回して調整する。
6. D端子とC端子の短絡を解除する。(イニシャルセットの解除)
そのとき点火時期が10° 付近でふらつくことを確認する。
7. モニタカプラのA端子とD端子を、C端子に短絡する。(CO調整モードになる。)
8. 約2500rpmで空ぶかしをした後、CO、HC濃度を測定する。

CO, HC 濃度 調整目標値	CO (%)	1.5 ± 1.0
	HC (ppm)	1,000 以下

8. 前記のCO濃度調整目標値を外れている場合は、インストルメントパネル左下にあるCOレジスタ (抵抗) を取り付け又は交換して調整を行う。
(CO調整用抵抗は全部で6種類有り、無しを含めると7段階の調整ができる)

	調整用紙抵抗 (COレジスタ)						
	濃くなる ← → 薄くなる						
表示	R3	R2	R1	無	L1	L2	L3





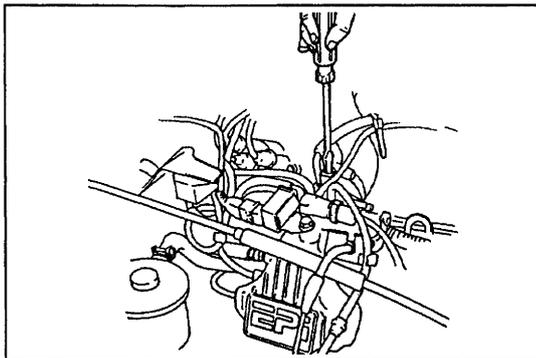
9. C端子をA端子に短絡し、E端子とC端子の間にデューティチェッカーをセットする。

(ISC デューティ測定)

デューティチェッカーの替りにアナログ式のテストを使用することもできる。その場合はE端子とC端子の間の直流電圧を測定する。

10. デューティ比が調整範囲内にあるか点検する。デューティチェッカーの替りにアナログ式のテストを使用した場合は測定値が () の範囲内にあるか点検する。

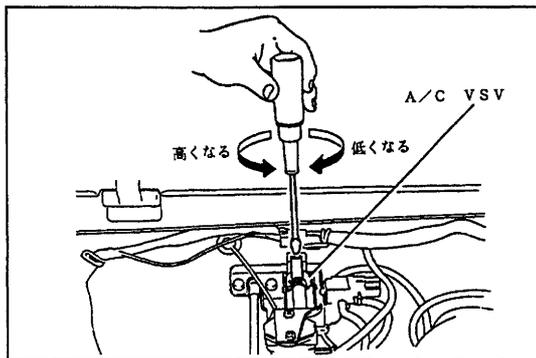
デューティ比 (%) (9 P50±50rpm)	60~70 (5±0.5V)
-----------------------------	-------------------



11. 上記の値を外れている場合は、調整範囲内に入るようにアイドルアジャストスクリュを調整する。

12. A/C付車は、前述の作業が終わった後A/CスイッチをONにし、9~10と同様の点検を行う。

デューティ比 (%) (1050±50rpm)	60~70 (5±0.5V)
----------------------------	-------------------



13. 上記の値を外れている場合は、調整範囲内に入るようにエアコンアイドルアップVSVのアジャストスクリュを調整する。

14. C端子とA端子の短絡を解除する。

セクション 1F

イグニッションシステム

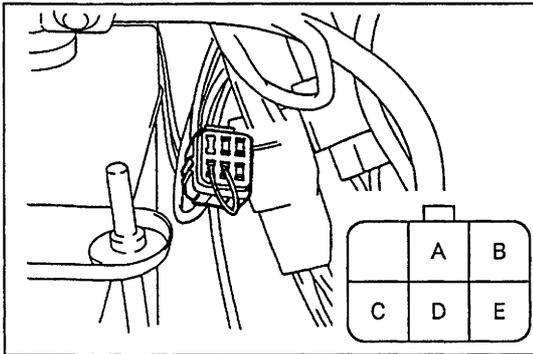
概 説

モニタカプラを4ピン型カプラから、アルト・セルボモードと同じタイプ (6ピン型) に変更し整備性を向上させた。

車 上 整 備

点火時期

1. ラジエータアッパーホースが熱くなるまで暖機運転をする。
2. モニタカプラのD端子とC端子を短絡させる。(ESAのイニシャル点火時期セット)

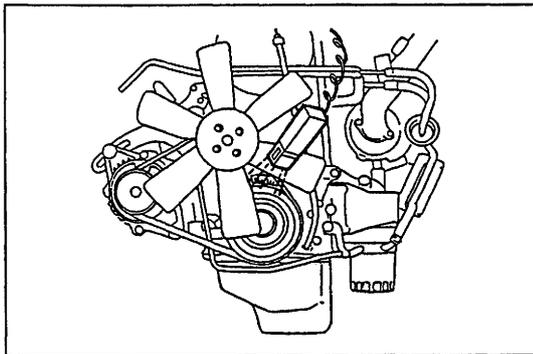


3. アイドリング回転が規定値であるか確認する。

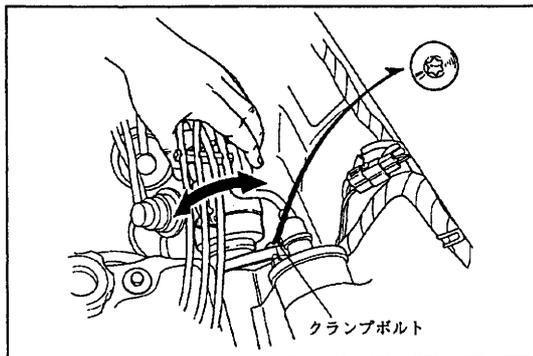
アイドリング回転数 (rpm) : 950 ± 50

4. イニシャル点火時期が規定値であるか確認する。

イニシャル点火時期 (BTDC° / rpm) : 5 / 950



5. 規定値より外れている場合は、ディストリビュータのクランプボルト (トルクスボルト T40) を緩め、ディストリビュータ本体を回して規定の点火時期に合わせる。
6. ダイアグ&イニシャルセット端子を元の状態に戻す。このとき、点火時期が 10° 前後で振れていることを確認する。(ESAの作動確認)

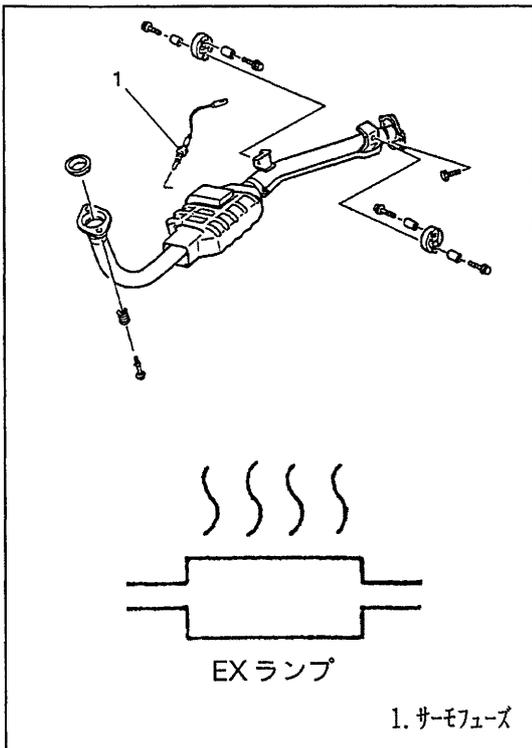


セクション 1J

エミッションコントロールシステム

目 次

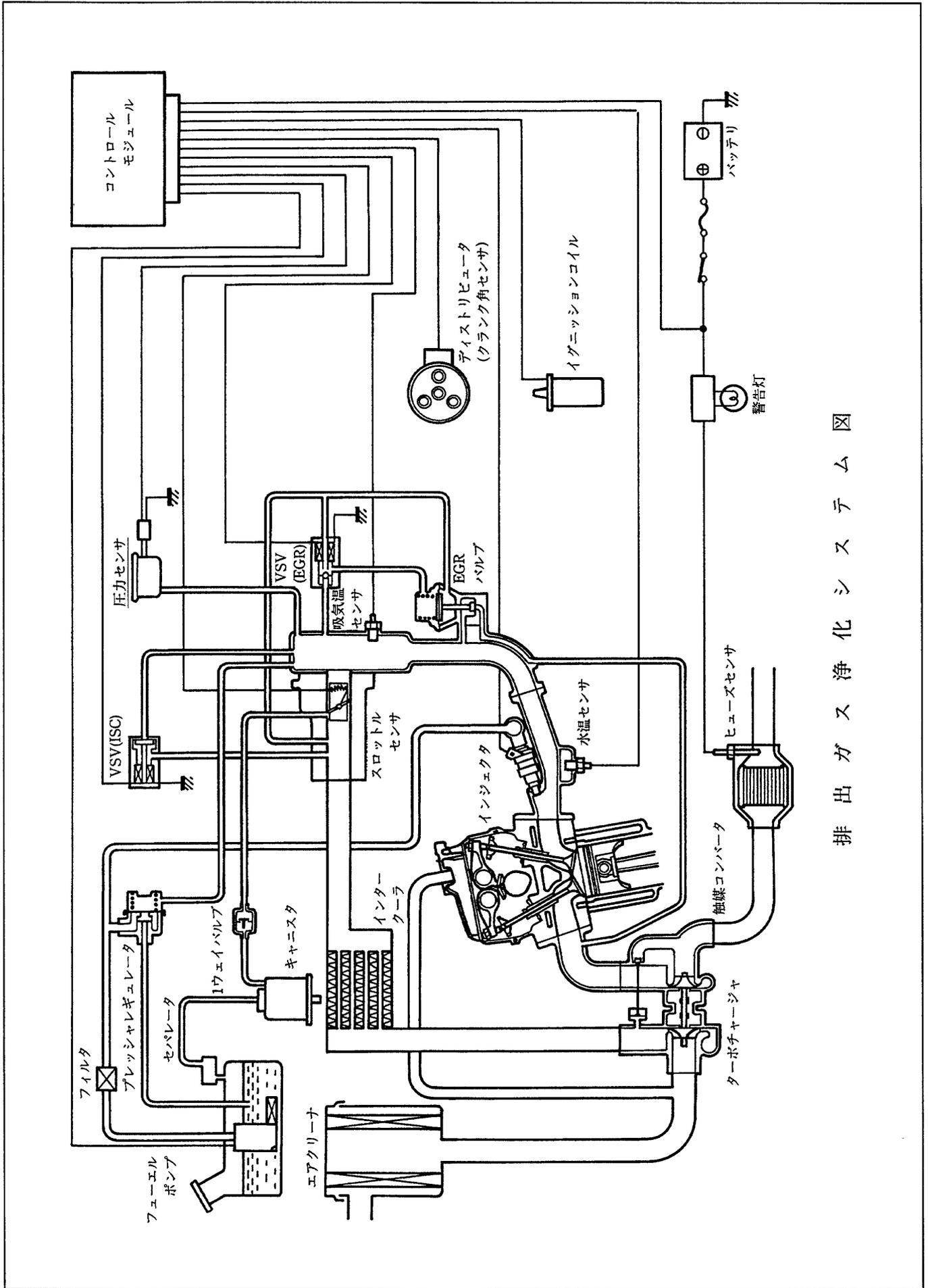
概 説1J-1
異常温度警報装置1J-1
エミッションコントロールシステム図1J-2
点 検1J-3



概 説

異常温度警報装置

触媒装置が異常高温時に溶断するフェーズ型温度センサ（サーモフェーズ）と警告ランプによる方式を採用している。サーモフェーズは触媒直後に装置し応答性を高めた。

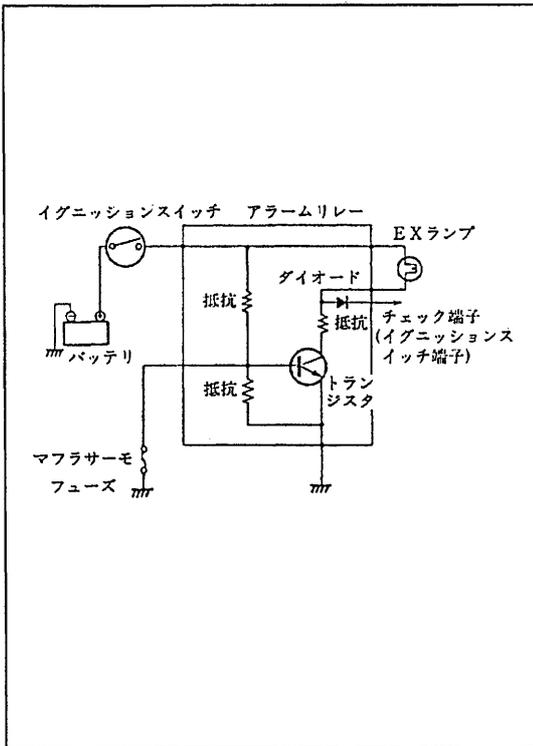


排出ガス浄化システム図

点 検

異常温度警報装置の点検

EX ランプの点灯のしかたで次の判断をする。



	イグニッションスイッチをONとSTの間	エンジン始動後（エンジン回転上昇）	判 定
警告ランプの点滅	点 灯	消 灯	正 常
	消 灯	消 灯	バルブ断線。回路の断線。
	点 灯	点 灯	排気系の異常温度による警告表示。マフラーサーモフューズの断線。トランジスタの不良。

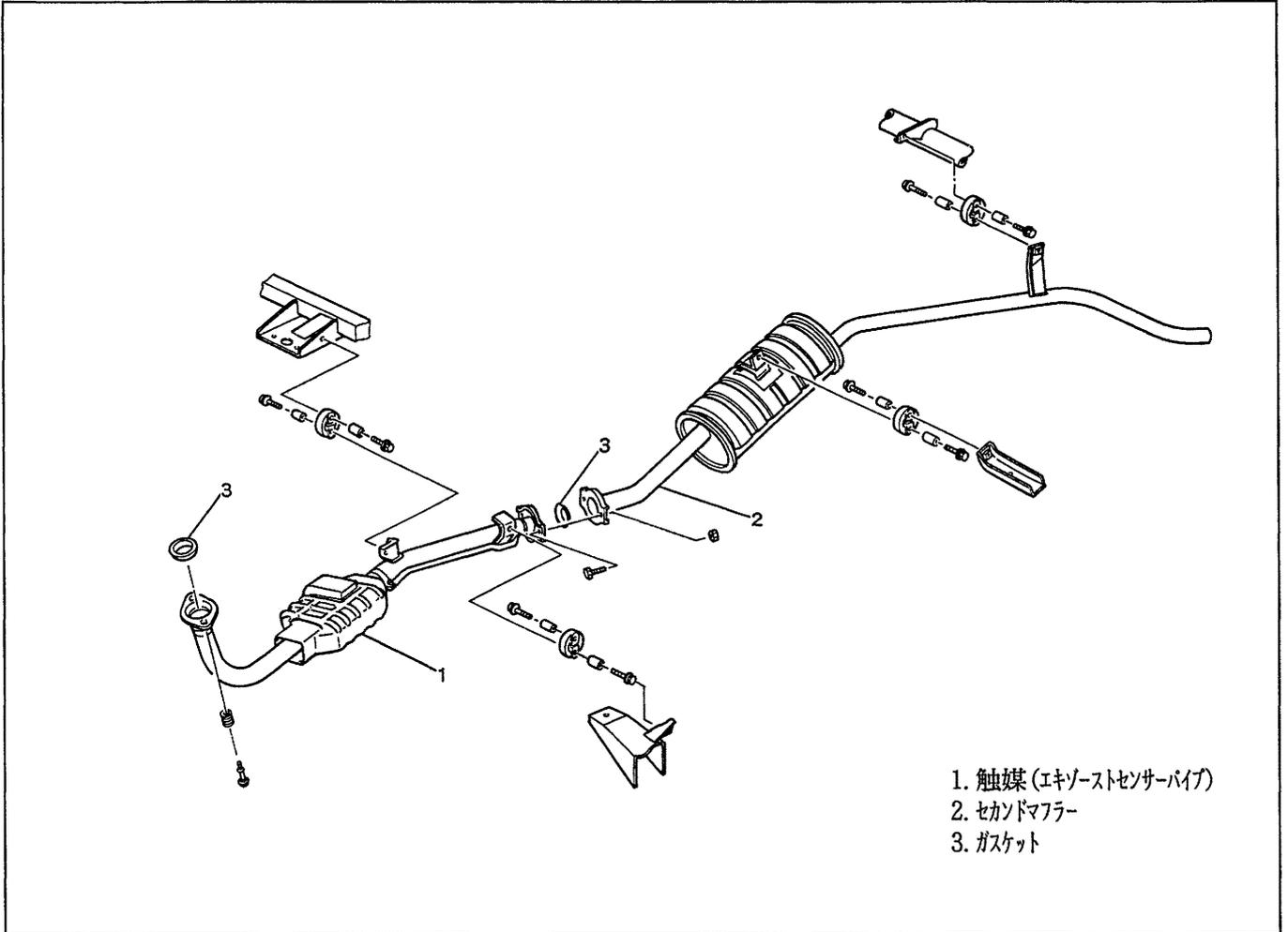
※走行中EX ランプが点滅するときは、フューズ接続端子部の接続不良か緩みが原因。

セクション 1K

エキゾーストシステム

概 説

平成2年度排出ガス規制に対応させるために、マフラーに酸化触媒を取り付けた。

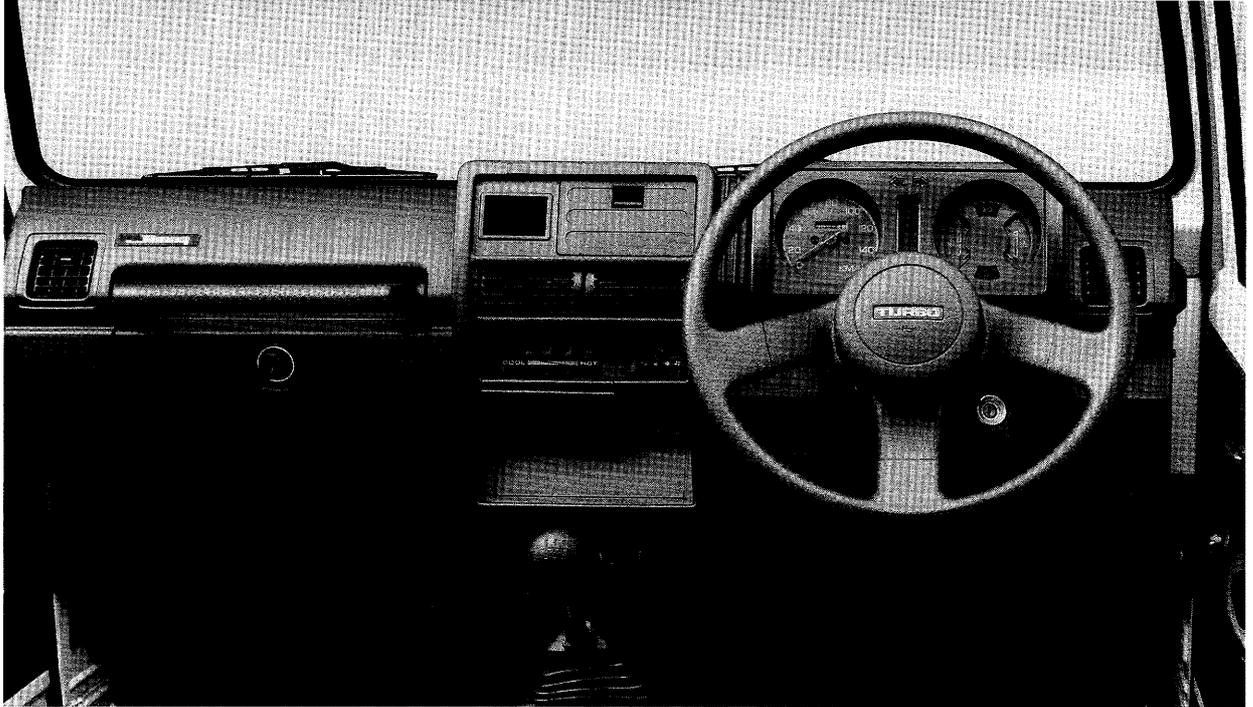


セクション 4

ステアリング, サスペンション, ホイール&タイヤ

概 説

4本スポークステアリングから3本スポークステアリングに変更しました。



セクション 6

ボデー

目 次

概説.....6-1
車上整備.....6-2
 フロントウインド.....6-2

概 説

フロントウインドガラスを、接着ガラスとすることによりボデーとの一体感を出し、外観の向上を図った。



車上整備

フロントウインドガラス

ウインドガラスは、接着剤だけでボデーに取り付けるのでその接着剤の選定はたいへん重要である。ウインドガラスの接着には必ずYHシールセット内の接着剤を使用すること。

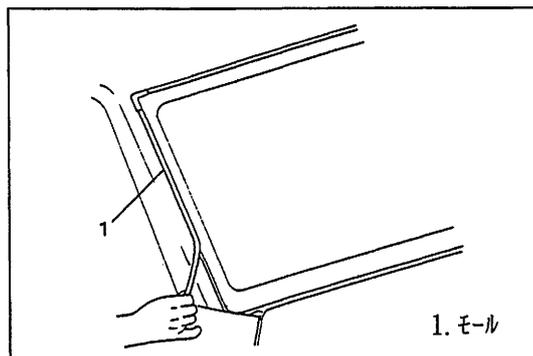
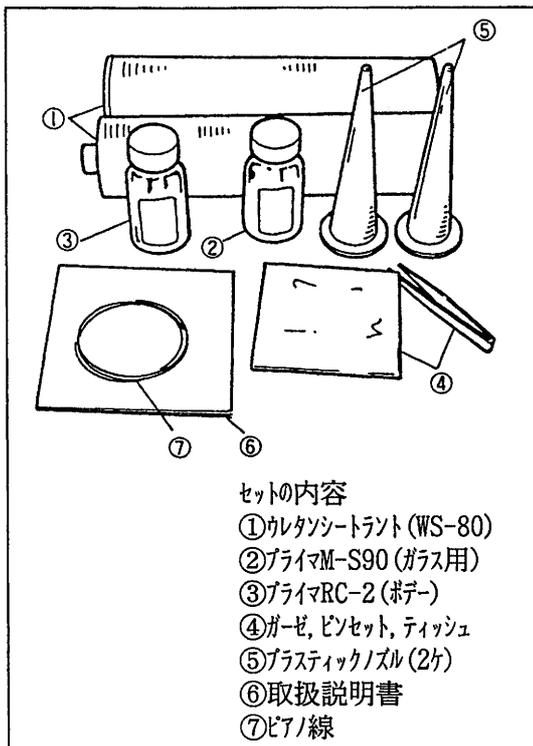
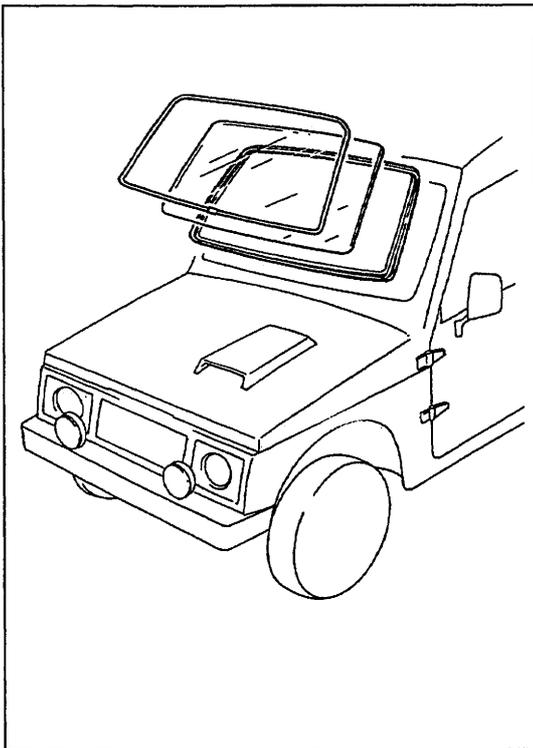
- 注意：
- ・YHシール、プライマは、製造日より3カ月間が有効期間である。有効期間を過ぎると性能が低下するので使用しないこと。
 - ・YHシールとプライマは、冷暗場所に保管すること。
 - ・YHシールは開封後5分以内、プライマは開封後1時間以内で使用すること。（一度開封すると保存はできない。）
 - ・プライマのMS-90（ガラス用）とRC-50（ボデー用）及びVC-100（モール用）に使用する筆は新品を用い、混用をしないこと。

上記の接着剤は、次の性質を持つものを使用すること。

せん断強さ	40kg/cm ² 以上
-------	-------------------------

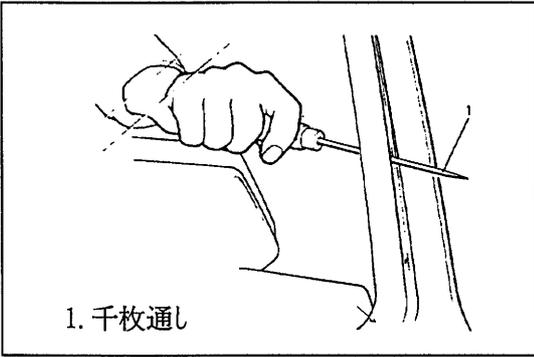
フロントウインドガラスの交換に必要な接着剤及び工具

- ・YHシールセット：99000-79A44
- ・コーキングガン（接着剤つめ込み用）
- ・千枚通し
- ・ピアノ線
- ・プライマ塗布用筆（3本）
- ・ナイフ
- ・ゴム吸着グリッパ
- ・ホワイトガソリン
- ・テープ

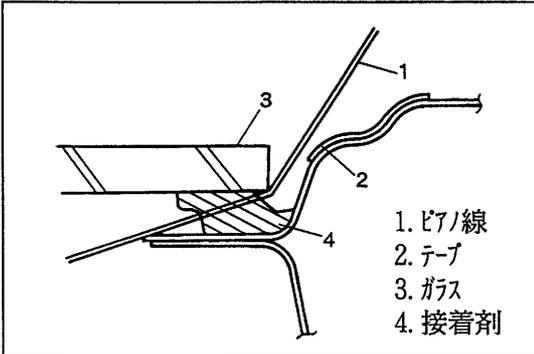


取外し

1. ワイパアームおよび装飾品をはずす。
2. ホワイトガソリンでガラスとその周辺を清掃する。（車室内の内側、外側の両面を清掃する）
3. モールを外す。
4. ガラス周囲のボデー面にテープを貼る。（傷付きを防止するため）
5. ルームミラー、ウインドガラストリムを外す。

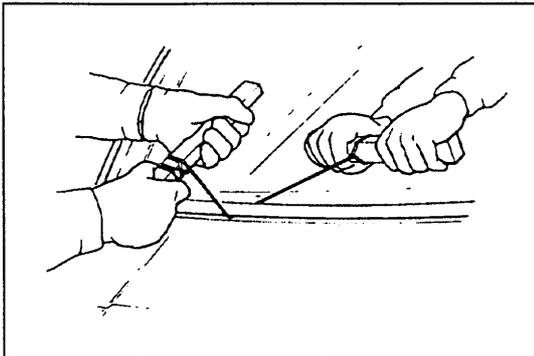


6. 千枚通しで接着部に貫通穴をあけ、ピアノ線を通す。



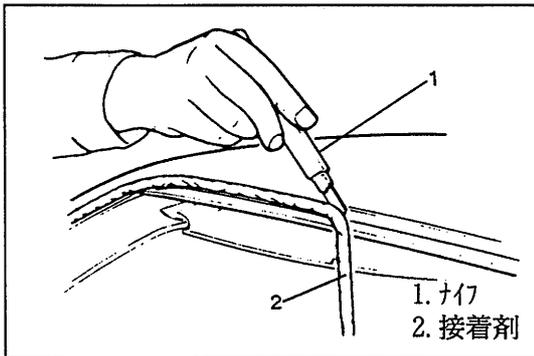
7. ノコを引く要領でピアノ線をガラス端面にあてながら、ガラス全周の接着剤を切る。

注意：ボデーパネルへの傷付きを防ぐためにできるだけガラスの近くを切ること。

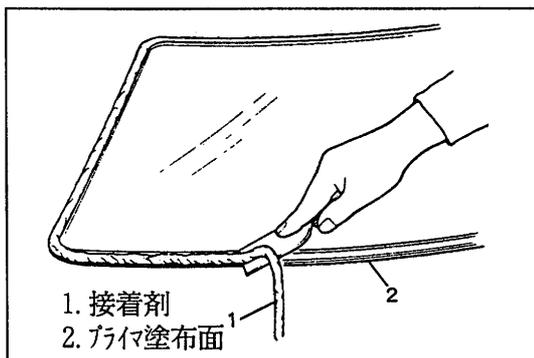


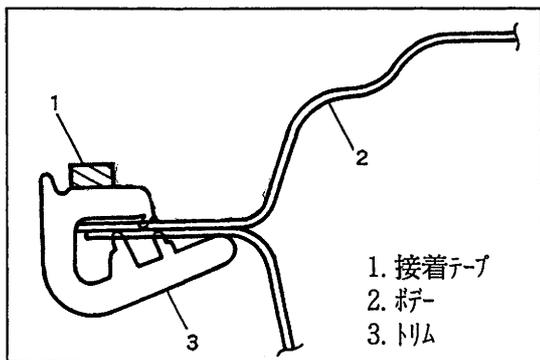
8. ボデー側の接着剤の切りこしは、ナイフで凹凸がないように、全周厚さ1~2mmに仕上げる。

注意：ナイフを使用する前にホワイトガソリンでナイフを拭き、油分を除去する。



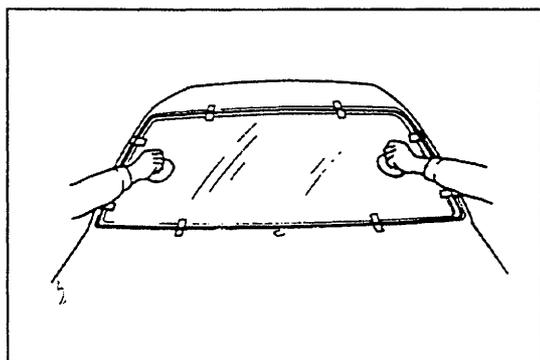
9. ウインドガラスを再使用する場合は、ガラスのプライマ塗布面に傷をつけないようにして、接着剤を完全に取り除く。



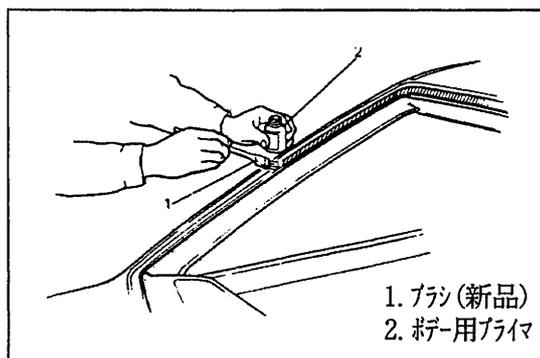


取付け

1. ホワイトガソリンを用い、ウインドガラス及び、ボデーの接着しようとする面を清掃し、乾燥させる。(10分以上乾燥させること。)
2. ウインドガラストリムを取り付ける。
3. 接着テープ、トリムをボデーに取り付ける。

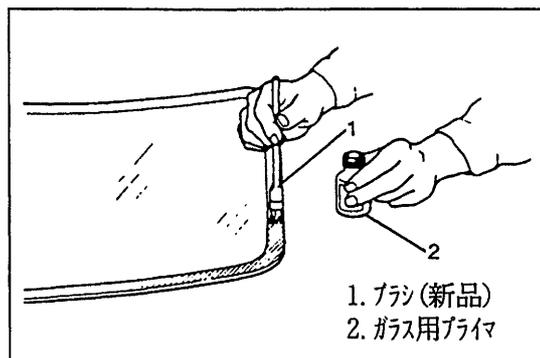


5. ガラスのボデーへの取付位置は、ガラス上端部、及び下端部、またガラスの両側端部（右および左）とボデー間のすき間が左右均等になるようにガラスを置き、図に示すようにガラス側とボデー側に合わせマークを付ける。



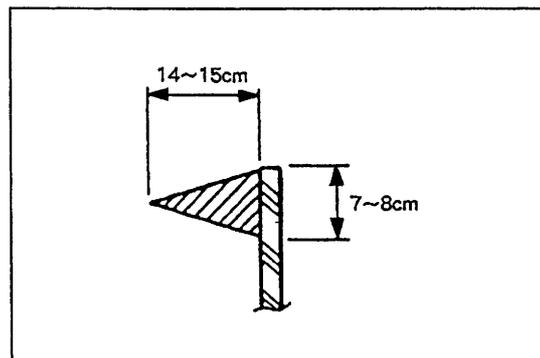
6. ブラシ（新品）を用い、ウインドシールドを接着しようとするボデー表面にボデー用プライマを十分に塗布する。

注意：プライマの正しい取扱い方法および乾燥時間については、説明書を必ず読んで行うこと。



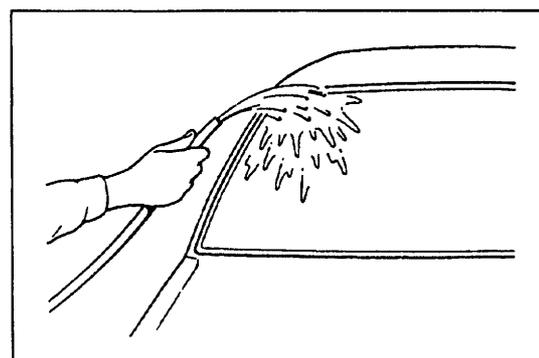
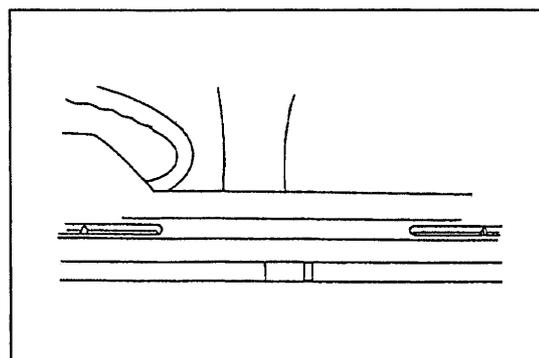
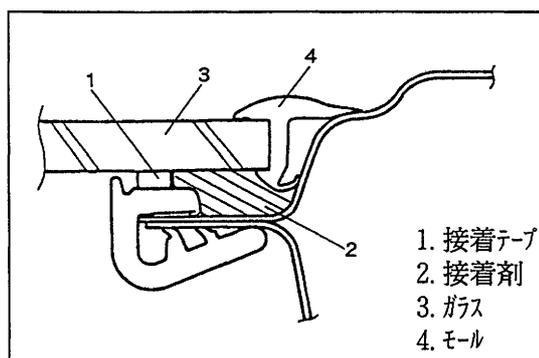
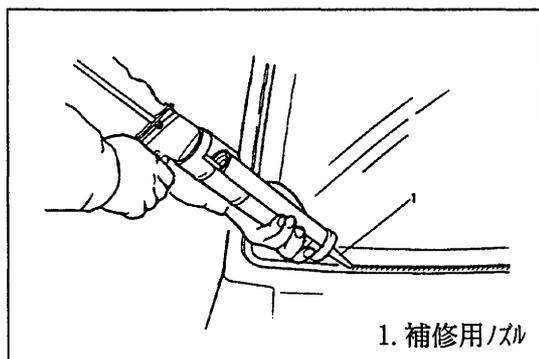
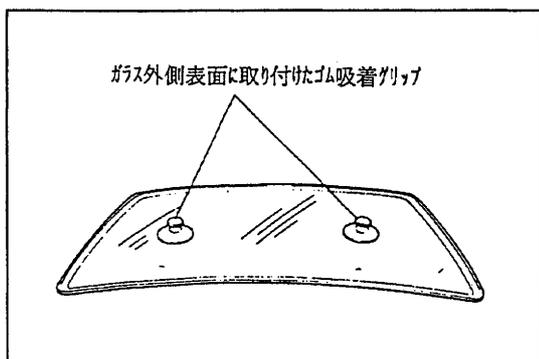
7. ボデーへ接着しようとするガラス面を、きれいな布片で拭く。ホワイトガソリンで清掃する場合は、10分以上乾燥させる。
8. ブラシ（新品）を用い、ウインドガラスへ接着しようとするガラス端面に沿ってガラス用プライマを十分塗布する。

注意：清掃したガラス面、及びボデー面には、水、油、ほこり等が付かないようにし、また手など触れないようにする。



9. ガラスの端面に沿って接着剤を塗布する。

注意：・プライマ塗布後10分間以上乾燥させたのち、図のようにガラスの下側中央部より塗布する。
・接着剤は高さを均等に塗布すること。
・プライマ塗面を傷付けないように注意すること。
・接着剤塗布後、5分以内にガラスをボデーへ圧着する。



10. ダムラバーより残りの紙をはぎ取る。
11. ゴム吸着グリフをつかみ、ガラスとボデーを5.でマークした合わせマークに一致させ、ボデーへ密着させる。
12. カートリッジのノズルを補修用ノズルと交換し、接着剤を注入不足の箇所に補充する。接着剤を過剰に充てんした場合は、ヘラで取り除く。接着剤がボデーやガラスに付着した場合は、ホワイトガラスで拭き取る。
13. 新しいモールを取り付ける。
14. モールジョイントが、ガラス下側中央になるように新しいモールを挿入する。
15. ガラス取付後約1時間たってから水をかけ、水漏れの点検を行う。
水漏れがある場合は、水きりをして接着剤の充てんを行うが、この作業を行っても止まらない場合は、ガラスを取り外し最初からやりなおす。
注意：
 - ・必要以上の水圧をかけないこと。
 - ・水きり作業で、エアガンを直接接着面にかけないこと。
 - ・赤外線ランプ等で乾燥させないこと。

注意：取付け完了後、次のことに注意すること。

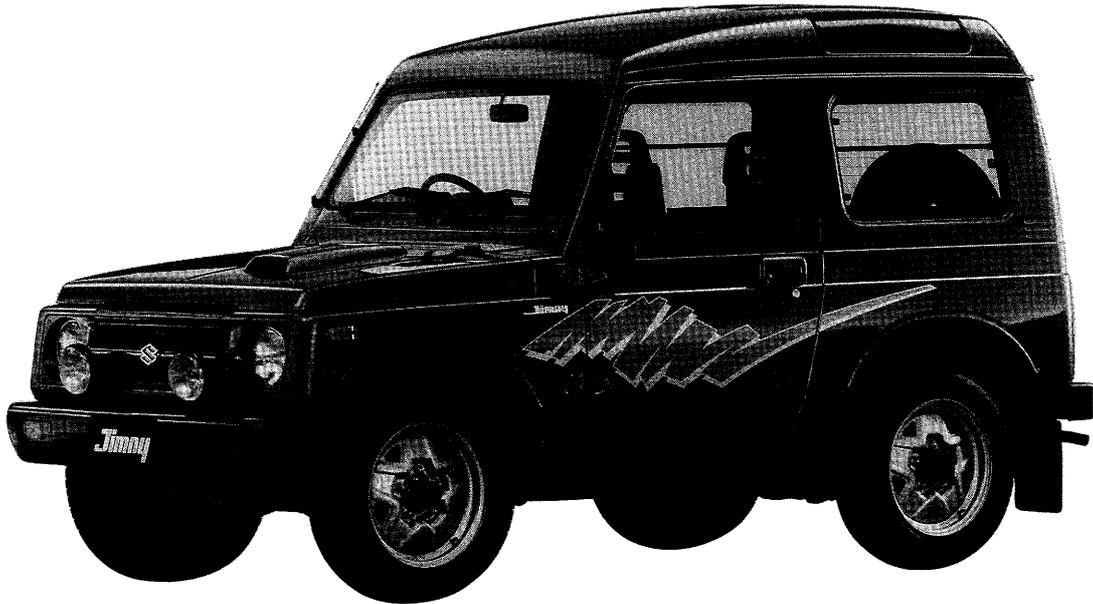
- ドアの開閉を行わないこと。
- 接着剤が完全に固まるまでテープでモールを押さえ付けること。
- 硬化時間は約4時間を目安にし、その時間内は一般走行しないこと。

セクション 7

バンパ

概 説

バンパ、フロントグリルのデザインを変更した。



セクション 8

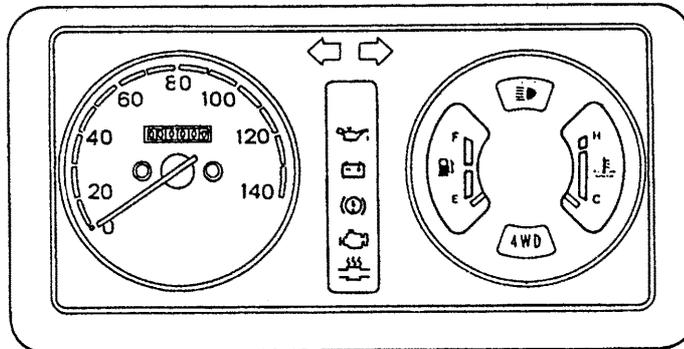
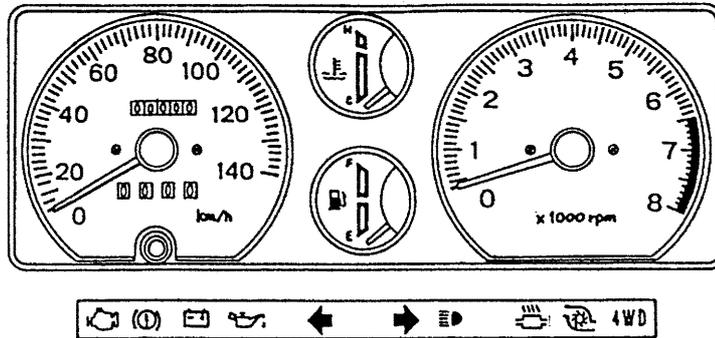
ボデー電気リカル

目次

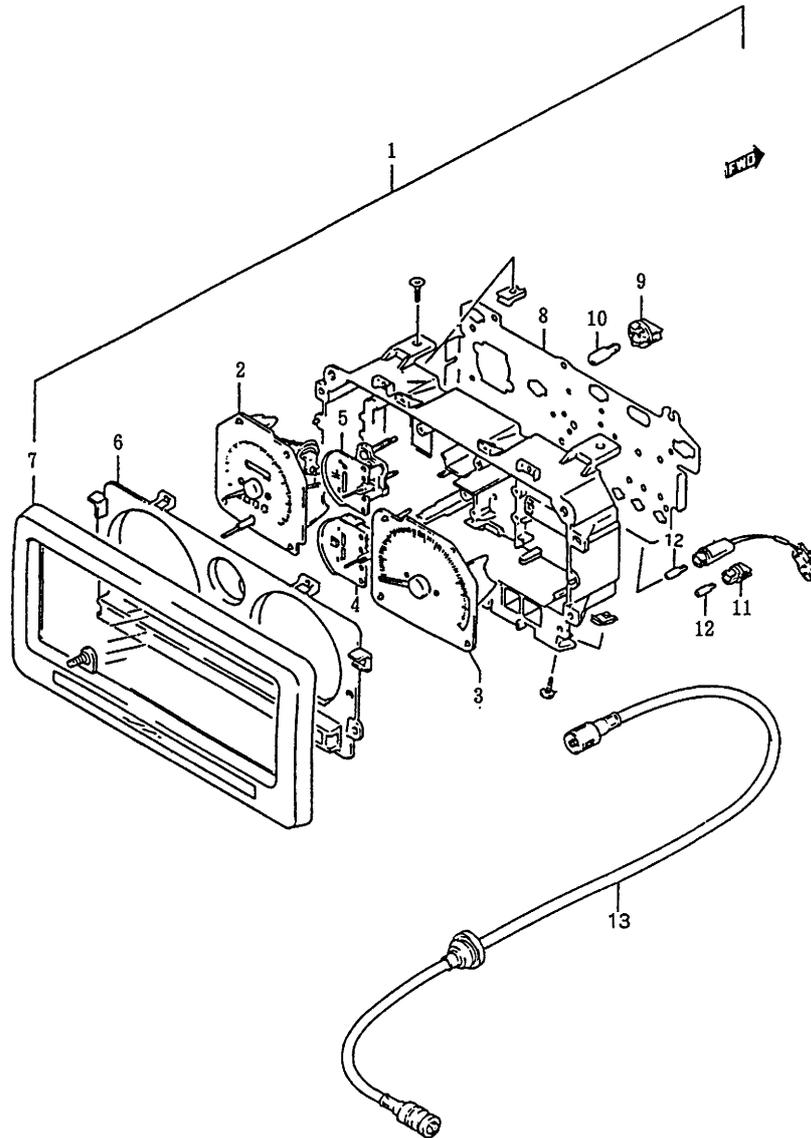
概説.....8-1
車上整備.....8-2
 コンビネーションメータ.....8-3
 ワイヤリングハーネス.....8-4

概説

平成2年度排ガス規制に適合させる排ガスシステムの変更に伴い、エキゾーストセンサを追加した。これによりメータ内にエキゾーストセンサ警告ランプを追加した。

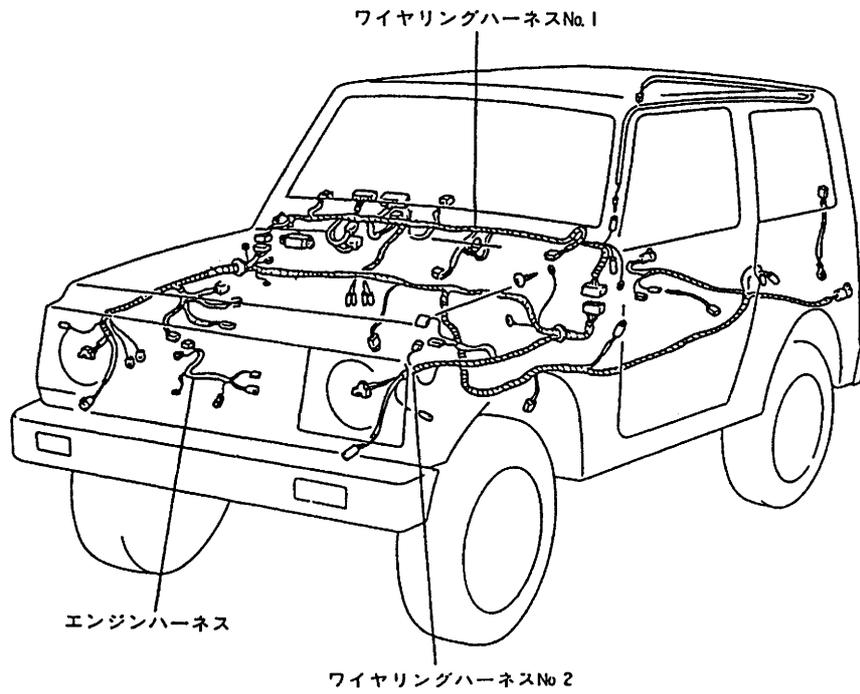


車上整備

コンビネーションメータ
構成部品

1. スピードメータコンビネーション
2. スピードメータ
3. タコメータ
4. フェUELメータ
5. テンパレチャメータ
6. ウィンドプレート
7. フロントガラス
8. プリントプレート
9. ソケット
10. バルブ (3. 4W)
11. ソケット
12. バルブ (1. 4W)
13. スピードメータケーブル

ワイヤリングハーネス



セクション 10

点検整備方式

点検整備方式とは、定期点検を行なう場合の「点検整備項目と点検整備時期及びその判定基準」を該当車種ごとに定めたもので、その点検整備方式に基づいて点検整備をしなければならない。表中の記号の内容は次のとおりである。

- 1) 「●」印は法規で義務付けられた点検時期を示し、「○」印はスズキ独自で推奨することを示す。
- 2) 「☆」印は保安部品の定期交換を示す。その交換時期は一般走行する不特定多数の車を対象に定めてある。従って、著しく走行条件の異なるものは、これに準拠して交換する。
- 3) 「※」印は初期点検のみを示す。(但し、※1は初期1か月又は1000km時点検。※3は初期3か月又は3000km時点検を示す。)
- 4) 判定基準欄でいう「高速」又は「高速走行時」とは、80km/h以上の速度で走行する場合をいう。
- 5) 「事業用等」の等とは、道路運送法施行規則(昭和26年運輸省令第75号)の2の規定により受けた許可に係る自家用自動車である。

点 検 整 備 項 目		点 検 整 備 時 期						判 定 基 準	備 考			
		運 行 前	自 家 用			事 業 用 等				単 位 千 km		
			6 か 月 毎	12 か 月 毎	24 か 月 毎	1 か 月 毎	3 か 月 毎				12 か 月 毎	
か	ハンド			●	●		●	●	※1 ※3	遊びは直進状態にてホイール外周で M : 0~30mm P : 0~30mm	M: マニアルを示す P: パワステを示す	
	ドル			●	●		●	●	※1 ※3			
	じ	ギヤ・ボックス				●		●	●			
						●		●	●	※1		
								●				
								●		直進状態でピットマン・アーム先端にて 0~1mm		
取	ロッド及びアーム類			●	●		●	●				
				●	●		●	●	※1			
								●				
								●				
り	ナックル				●		●	●				
								●				
装	かじ取り車輪				●			●		トーイン 2~6 mm キャンバ 1° 00' ±1° キャスト 2° 30' ±1°		
						●		●		内 側 29° 00' 外 側 26° 00'		
置	パワー・ステア		●	●	●	●	●	●		ベルトの中央を10kgで押したときのたわみ 9~12mm		
				●	●	●	●	●		オイル・レベル・ゲージの示す範囲		

点検整備項目		点検整備時期						判定基準	備考						
		運行前	自家用事業用等							単位 km					
			6か月毎	12か月毎	24か月毎	1か月毎	3か月毎				12か月毎				
制動装置	倍力装置			●											
	油密及び機密						●								
	ブレーキ・ドラム及びブレーキ・シュー			●	●	●	●	●	◇ 自動調整式						
制動装置	シューの摺動部分及びライニングの摩耗			●	●		●	●	◇ 標準厚さ 5.0 mm 使用限度 1.0 mm						
	ドラムの摩耗及び損傷				●			●	◇ 標準径 220.0 mm 使用限度 222.0 mm						
	バックプレート							●							
制動装置	ブレーキ・ディスク及びパッド			●	●		●	●	自動調整式						
	パッドの摩耗			●	●		●	●	標準厚さ 10.0 mm 使用限度 2.0 mm						
	ディスクの摩耗及び損傷				●			●	標準厚さ 10.0 mm 使用限度 8.0 mm						
走行装置	フロント・アクスル							●							
	リア・アクスル・ハウジング							●							
走行装置	ホイール								◇						
	タイヤの空気圧	●	●	●	●	●	●	●	※3 (単位: kg/ cm ²) <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>タイヤ仕様</th> <th>前輪</th> <th>後輪</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>175/80R16 91Q</td> <td rowspan="2">1.4</td> <td rowspan="2">1.8</td> </tr> <tr> <td>6.00-16-4PR</td> </tr> </tbody> </table>	タイヤ仕様	前輪	後輪	175/80R16 91Q	1.4	1.8
タイヤ仕様	前輪	後輪													
175/80R16 91Q	1.4	1.8													
6.00-16-4PR															

点検整備項目		点検整備時期							単位 km	判定基準	備考	
		運行前	自家用			事業用等						
			6か月毎	12か月毎	24か月毎	1か月毎	3か月毎	12か月毎				
走行装置	ホ	タイヤの亀裂及び損傷	●	●	●	●	●	●	●	※3		
		タイヤの溝の深さ及び異常な摩耗	●	●	●	●	●	●	●	※3	残溝 1.6 mm まで	
		タイヤの金属片、石その他の異物	●	●	●	●	●	●	●	※3		
	イ	ホイール・ナット及びホイール・ボルトの緩み			●	●	●	●	●	※1	◇ ホイール・ナットの締付トルク 8.0~11.0 kg・m	
	リ	リム及びホイール・ディスクの損傷				●						
		リム・サイド・リング及びホイールディスクの損傷					●	●	●			
	ル	フロント・ホイール・ベアリングのがた				●		●	●		◇ プレロード : 1.0~3.0 kg 遊び : 0~0.05 mm 以下	
	リヤ・ホイール・ベアリングのがた				●			●		◇ ベアリング軸方向の遊び 0~0.80 mm		
緩衝	シャシばね	損傷			●		●	●				
		左右のたわみの不同							●			
装	取付部及び連結部	取付部の緩み及び損傷			●					※1		
		取付部（ブラケット部を除く）の緩み及び損傷						●	●			
		連結部のがた				●			●			
		リーフのずれ							●			
		ブラケットの取付けの緩み及び損傷							●			
置	・アーム サスペンション	連結部のがた及びアームの損傷			●			●			×	

点検整備項目			点検整備時期						判定基準	備考	
			運行前	自家用		事業用等		単位 km			
				6か月毎	12か月毎	24か月毎	1か月毎				3か月毎
緩衝装置	ショック・アブソーバ	油漏れ及び損傷			●		●	●			
		取付部のがた			●		●	●			
動力伝達装置	クラッチ	ペダルの遊び及び切れたときの床板とのすき間	●	●	●	●	●	●	※3	遊び 20~30 mm 切れたときの床板とのすき間 120 mm 以上	
		作用		●	●	●	●	●			
		液量		●	●		●	●		◇	×
トランスミッション	ミッショ	油漏れ及び油量		●	●	●	●	●	※1	◇フィラ・プラグの口元までであること	
		操作機構のがた			●			●	※1		
プロペラシャフト	及びドレイブ・シャフト	連結部の緩み		●	●		●	●			
		自在継手部のダスト・ブーツの亀裂及び損傷		●	●		●	●			×
		スプライン部のがた			●			●			
		自在継手部のがた			●			●			
		プロペラシャフトの振れ						●			0.50 mm以下
		センタ・ベアリングのがた			●			●			×
		アクスル・シャフトのねじれ及び亀裂						●			
デフアレ	シヤル	油漏れ及び油量		●	●	●	●	●	※1	◇フィラ・プラグの口元までであること	
電気装置	点火装置	点火プラグの状態	●	●	●	●	●	●		プラグ・ギャップ 0.7~0.8 mm	
		点火時期	●	●	●	●	●	●	※3	(単位: BTDC° /rpm) 点火時期 5 / 950	

点 検 整 備 項 目			点 検 整 備 時 期						判 定 基 準	備 考				
			運 行 前	自 家 用			事 業 用 等				単 位 千 km			
				6 か 月 毎	12 か 月 毎	24 か 月 毎	1 か 月 毎	3 か 月 毎				12 か 月 毎		
電 気 装 置	点 火 装 置	断続器の状態		●	●	●	●	●	※3		無接点式			
		ディストリビュータのキャップの状態		●	●		●	●						
		進角装置（遅角機構を含む）の機能		●	●		●	●	※3		電子式			
	バ ッ テ リ	液 量		●	●	●	●	●	●	※1 ※3	◇ 液面レベル UPPER ~LOWER 間にあること			
		液の比重			●	●		●	●		液温20℃のとき 比重 1.280			
		ターミナル部の接続状態			●	●		●	●	※1				
電 配 気 線	接続部の緩み及び損傷				●	●	●	●						
	原 動 機	かかり具合及び異音			●	●	●	●	●	※1 ※3				
低速及び加速の状態				●	●	●	●	●	●	※1 ※3	アイドリング回転数 (単位: rpm) <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>回転数</td> <td>950±50</td> </tr> </table>	回転数	950±50	
回転数		950±50												
排気の状態			●	●	●	●	●	●	●	※3				
エア・クリーナ・エレメントの状態				●	●	●	●	●						
シリンダ・ヘッド及びマニホールド各部の締付状態								●		締付けトルク シリンダ・ヘッド (冷 間) 6.5~7.0 kg・m マニホールド 1.8~2.8 kg・m				

点検整備項目		点検整備時期						単位 km	判定基準	備考				
		運行前	家用		事業用等									
			6か月毎	12か月毎	24か月毎	1か月毎					3か月毎	12か月毎		
原	本							●	◇ (単位:kg/cm ² -rpm) <table border="1"> <tr> <td>圧縮圧力限度 (3CYL)</td> <td>各気筒間差</td> </tr> <tr> <td>9.0-400</td> <td>1.0 kg/cm²以内</td> </tr> </table>	圧縮圧力限度 (3CYL)	各気筒間差	9.0-400	1.0 kg/cm ² 以内	
	圧縮圧力限度 (3CYL)	各気筒間差												
9.0-400	1.0 kg/cm ² 以内													
体	弁すき間				●			●	(冷間) 吸気 0.15mm 排気 0.17mm					
機	潤滑装置	油の汚れ及び量	●	●	●	●	●	●	※1 ※3	◇レベル・ゲージ MAX~MIN間にあること				
		油漏れ		●	●	●	●	●	※1					
		オイルの量	●											
	燃料装置	燃料漏れ		●	●	●	●	●	●	※1				
		キャブレタのリンク機構の状態				●		●	●			×		
		スロットル・バルブ及びチョーク・バルブの状態				●		●	●			スロットル・ポデーの状態		
		噴射ノズルの噴射圧力及び噴霧状態				●		●	●			×		
		噴射時期及び噴射量				●			●		◇	×		
		供給ポンプの機能							●			×		
	燃料の量	●												
冷却装置	水量	●	●	●	●	●	●	●	※1 ※3	リザーバ・タンク FULL~LOW間にあること				

点 検 整 備 項 目		点 検 整 備 時 期						判 定 基 準	備 考
		運 行 前	自 家 用		事 業 用 等		単 位 千 km		
			6 か 月 毎	12 か 月 毎	24 か 月 毎	1 か 月 毎			
計 器	作 用		●	●		●	●	※1 ※3	
エ グ ゾ ー ス ト	マ フ ラ		●	●		●	●		
	マフラの機能			●			●		
高 圧 ガ ス を 燃 料 と す る 燃 料 装 置 等	導管及び継手部のガス漏れ及び損傷		●	●		●	●		×
	ペーパーライザのタール		●	●		●	●		×
	ガス容器取付部の緩み及び損傷			●			●		×
	座席のある車室との間の機密			●			●		×
車 枠 及 び 車 体	ドア・ロックの機能			●		●	●	※1	
	緩み及び損傷			●		●	●	※1	
座 席	座席ベルトの状態			●			●		
前 日 の 運 行 に お い て	異 状 が 認 め ら れ た 箇 所	●							
そ の 他	シャシ各部の給油旨状態		●	●	●	●	●		

点 検 整 備 項 目			点 検 整 備 時 期								点検方法及び判定基準	備 考	
			運 行 前	自 家 用			事 業 用 等			走 毎 行 の 整 備 千 km			交 時 換 期 年 毎
				6 か 月 毎	12 か 月 毎	24 か 月 毎	1 か 月 毎	3 か 月 毎	12 か 月 毎				
か じ 取 り 装 置	ナ ッ ク ル	ステアリング・ナックル、オイルシールの 磨耗及び損傷			○	○			○	○		オイルシールカバーをはず して、オイルシールに磨耗 損傷がないか点検する	
制 動 装 置	ブ レ ー キ	ブレーキ液交換									2		
	保 安 部 品	マスタ・シンリダ及びホイール・シリン ダのカップ及びブーツ等ゴム部品交換										☆2	
		ブレーキ・ホース交換										☆4	
		ブレーキ倍力装置のゴム部品交換										☆4	
		ブレーキ用バキューム・ホース交換										☆4	
走 行 装 置	ホ イ ー ル	リヤ・ホイール・ベアリングのかた							○				
動 力 伝 達 装 置	ト ラ ン ス ミ ッ シ ョ ン	ミッション・オイル交換								20	2		
		トランスファの油漏れ及び油量			○	○	○	○	○	○	※1		フィラ・プラグの口元まで あること
		トランスファの操作機構のガタ				○				○	※1		ニュートラル状態でシフト レバーにガタがないか点検 し、次に各ギヤに入れて噛 み合い状態を点検する
		トランスファ及びデファレンシャル・ オイル交換									20	2	
原 動 機	本 体	エア・クリーナ・エレメント交換									20		
	潤 滑 装 置	エンジン・オイル交換									5		
		オイル・クリーナ交換										10	
機	燃 料 装 置	フューエル・フィルタ交換									40		
	保 安 部 品	フューエル・ホース交換										☆4	
	冷 却 装 置	冷却水交換										2	LLC 使用の 場合を示す

点 検 整 備 項 目		点 検 方 法 及 び 判 定 基 準							
ばい煙・悪臭のあるガス・有害なガス等の発散防止装置	一酸化炭素等発散防止装置	排気ガス再循環装置の機能							
		<p>(1)EGRバルブとVSV間の負圧回路にバキューム・ゲージを取り付け、バキューム・ゲージの振れ具合を点検する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">エ ン ジ ン の 状 態</th> <th>バキューム・ゲージ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>エ(エンジン水温40℃冷機以下)</td> <td>ブレーキを踏んでエンジンをレーシング運転させる。</td> <td>負 圧 : 0</td> </tr> <tr> <td>エ(エンジン水温75℃暖機以上)</td> <td>ブレーキを踏んでエンジンをレーシング運転させる。</td> <td>レーシングの周期に合わせて0と100mmHg以上の範囲で振れれば良い。</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2)エンジンをアイドリング状態に保ち、バキューム・ポンプを用いてEGRバルブに150mmHgの負圧をかけたとき、EGRバルブが開いてアイドリング回転が不安定になったりエンストすれば良い。</p>	エ ン ジ ン の 状 態		バキューム・ゲージ	エ(エンジン水温40℃冷機以下)	ブレーキを踏んでエンジンをレーシング運転させる。	負 圧 : 0	エ(エンジン水温75℃暖機以上)
エ ン ジ ン の 状 態		バキューム・ゲージ							
エ(エンジン水温40℃冷機以下)	ブレーキを踏んでエンジンをレーシング運転させる。	負 圧 : 0							
エ(エンジン水温75℃暖機以上)	ブレーキを踏んでエンジンをレーシング運転させる。	レーシングの周期に合わせて0と100mmHg以上の範囲で振れれば良い。							

セクション 11

サービスデータ

目 次

エンジン	11-2
燃料装置	11-3
冷却装置, 潤滑装置	11-4
電装関係	11-5
動力伝達装置関係	11-6
ステアリング関係, 制動装置関係	11-7
タイヤ・ホイール関係	11-8



エンジン

項 目			基 準 値	使 用 限 度	摘 要	
圧 縮 圧 力(kg/cm ² -rpm)			12.0-400	9.0-400		
圧縮圧力の気筒間差(kg/cm ²)			1.0以内	-		
Vベルトのたわみ量(mm)			8~10 (新品時) 9~12 (張替時)	-	ベルトの中央を10kg の力で押した時	
バルブのすき間(mm)	IN	冷 間 時	0.15	-		
		温 間 時	0.25	-	完全暖機10分後	
	EX	冷 間 時	0.17	-		
		温 間 時	0.27	-	完全暖機10分後	
アイドル回転数(rpm)		MT	950±50	-		
		AT	-	-		
アイドルアップ回転数(rpm)		MT	-	-		
		AT	-	-		
ファーストアイドル回転数(rpm)			-	-	非調整式	
CO,HC 濃 度	空燃比制御装置(フィードバック) 停止時		-	-		
	空燃比制御装置(フィードバック) 作動時		-	-		
	2 次 エ ア カ ッ ト 時		-	-		
	2 次 エ ア 導 入 時		-	-		
	通 常 時		CO: 1.5±1.0% HC: 1100ppm以下	-		
シ リ ン ダ ・ へ ッ ド	シリンダとの合わせ面のひずみ(mm)		-	0.05		
	マニホールド取付面のひずみ(mm)		-	0.10		
	バルブシート	あたり幅(mm)	IN	1.3~1.5	-	
			EX	1.3~1.5	-	
		角 度(°)	内面	IN: 60, EX: 75	-	
			シート面	45	-	
			平面	15	-	
	バルブガイドの内径(mm)		IN	5.500~5.512	5.54	
			EX	5.500~5.512	5.54	
	バルブステムの外径(mm)		IN	5.465~5.480	-	
EX			5.450~5.465	-		
バルブガイドとバルブステム の す き 間(mm)		IN	0.02~0.050	0.07		
		EX	0.035~0.065	0.09		
バルブガイドの打ち込み高さ(mm)			14.0	-		
バルブスプリング		自由長(mm)	54.45	53.4		
		直角度(mm)	-	2.4		
バルブロッカー-アームとシャフトとのすき間(mm)			0.005~0.040	0.06		
カムシャフトの振れ(mm)			-	0.05		
カムの高さ(mm)		IN	36.109	36.00		
		EX	36.111	36.00		
カムシャフト軸受部の外径(mm)		①	43.425~43.450	43.375	プーリ側よりの順番 で示す	
		②	43.625~43.650	43.575		
		③	43.825~43.850	43.775		
		④	44.025~44.050	43.975		
		⑤	-	-		

項 目			基 準 値	使用限度	摘 要	
シリンダ・ヘッド	シリンダヘッドのカムシャフト軸受部の内径(mm)	①	43.500~43.516	43.525	プーリ側よりの順番で示す	
		②	43.700~43.716	43.725		
		③	43.900~43.916	43.925		
		④	44.100~44.116	44.125		
		⑤	-	-		
	カムシャフトのオイルクリアランス(mm)			0.050~0.091	0.15	
シリンダ	シリンダヘッドとの合わせ面のひずみ(mm)		-	0.05		
	内 径 (mm)		65.000~65.020	65.070	8箇所測定による最大径と最小径の差	
	内 径 拡 大 限 度 (mm)		-	65.500		
ピ ス ト ン	ピ ス ト ン の 外 径 (mm)		64.965~64.985	-		
	ピストンとシリンダのすき間(mm)		0.025~0.045	0.10		
	ピ ス ト ン リ ン グ	組立合い口 すき間(mm)	ファーストリング	0.12~0.27	0.7	
			セカンドリング	0.15~0.30	0.7	
		自由合い口 すき間(mm)	ファーストリング	8~9.5	-	
			セカンドリング	9~10.5	-	
		リングとリング 溝のすき間(mm)	ファーストリング	0.030~0.070	0.12	
			セカンドリング	0.020~0.060	0.10	
	オイルリング		0.06~0.15	-		
	ピストンピンボス部の内径 (mm)		18.006~18.014	-		
ピストンピンの外径 (mm)		17.995~18.000	-			
コ ネ ク テ ィ ン グ ロ ッド	曲 が り (mm)		-	0.05	100mm のとき	
	ね じ れ (mm)		-	0.10	100mm のとき	
	小 端 部 の 内 径 (mm)		-	-		
	大 端 部 の ス ラ ス ト す き 間 (mm)		0.11~0.31	0.35		
	コネクティングロッドベアリングのオイルクリアランス(mm)		0.020~0.040	0.065		
ク ラ ン ク ・ シ ャ フ ト	振 れ (mm)		-	0.03	1回転させてゲージ指示差の最大値の1/2を読む	
	ジャーナル部,ピン部の偏摩耗 (mm)		-	0.01		
	ジ ャ ー ナ ル 径 (mm)		43.982~44.000	-		
	ピ ン 径 (mm)		37.982~38.000	-		
	クランクシャフトベアリングのオイルクリアランス(mm)		0.20~0.40	0.065		
	ス ラ ス ト す き 間 (mm)		0.13~0.28	0.35		

燃料装置

項 目	基 準 値	使用限度	摘 要
キャブレタフロートレベル (mm)	-	-	
フューエルプレッシャ (kg/cm ²)	3.1	-	ポンプ本体

冷却装置

項 目		基 準 値	使 用 限 度	摘 要
冷 却 水 全 容 量 (ℓ)		4.0	-	内リザーバタンク 容量0.6 ℓ
ラジエータ	ラジエータキャップ開圧弁(kg/cm ²)	0.9	0.75	
	電動ファンの作動開始温度 (°C)	-	-	
サーモスタット	開 き 始 め 温 度 (°C)	82	-	
	全 開 温 度 (°C)	95	-	

潤滑装置

項 目		基 準 値	使 用 限 度	摘 要	
エ ン ジ ン ・ オ イ ル	オイルプレッシャ (kg/cm ² -rpm)	2.5 - 2000	-		
	オイル量 (ℓ)	交 換 時	2.7	-	
		フィルタと同時交換時	2.9	-	
		分 解 時	3.1	-	
レベルゲージの上限と下限の差 (ℓ)		1.0	-		
使 用 エ ン ジ ン オ イ ル		オイルの交換時期		オイルフィルタの交換時期	
スズキ エクスターオイル ターボ	API分類	SAE分類	5,000km 走行ごと	10,000km 走行ごと	
	SF	10W - 30			

電装関係

項 目			基 準 値	使用限度	適 用		
点	スパークプラグ	NGK	型 式	BPR5E	-	標準仕様	
			型 式	BPR6E	-	オプション	
		火 花 す き 間 (mm)	0.7~0.8	-			
	ND (日本電装)	型 式	W16EPR-U	-	標準仕様		
			W20EPR-U	-	オプション		
		火 花 す き 間 (mm)	0.7~0.8	-			
	ポイント (エア) ギャップ (mm)			-	-		
	エアギャップ (無接点式) (mm)			0.20~0.40	-		
	ド エ ル ア ン グ ル (度)			-	-		
	火	点 火 順 序		1-3-2	-		
点 火 時 期 (BTDC度/rpm)		MT 5/950 AT -	- -	イニシャル (B,C端子短絡)			
装	進角装置 (遅角)	遠心式	進角度数 / 進角 開始回転数(°/rpm)	1 段	-	-	
			2 段	-	-		
		負圧式	進角度数 / 進角 終了回転数(°/rpm)	1 段	-	-	
			2 段	-	-		
	置	電子式	制 御 範 囲 (°)	1 段	-	-	
				2 段	-	-	
		電子式		制 御 範 囲 (°)	-5~55	-	クランク軸角相当
		ハイテンションコード抵抗 (KΩ/m)			16	-	
イグニッションコイル抵抗 (Ω)	1 次	1.48	-				
	2 次	12.6K	-				
	外付抵抗	-	-				
バ	比	重 (液温 20℃)	一 般	1.280	-		
			寒 冷 地	1.280	-		
	容	量 (Ah)	一 般	24 (5)	-		
			寒 冷 地	28(5), 36(5)	-		
スタータモータブラシ長さ (mm)			17.0	11.5			
ジ	ロータコイルの抵抗 (Ω)		2.8~3.0	-			
	調 整 電 圧 (V)		14.7±0.3	-	25℃時, 負荷10A		
エ	コンプレッサベルトのたわみ量 (mm)		5~10	-	10kg加圧時		
	ア	エアコン ON 時 アイドル アップ回転数 (rpm)	MT	1100±50	-		
AT			-	-			

動力伝達装置関係

4輪サービス・部品ニュース

項 目		基 準 値	使用限度	摘 要				
クラッチ	クラッチペダル	遊 び (mm)	20~30	-				
		床板とのすき間 (mm)	120以上	-				
	クラッチディスク	自由厚さ (mm)	7.9	6.5				
		回転方向のガタ (mm)	-	1.0				
		リベットの沈み量 (mm)	1.3	0.1				
	クラッチカバー平面度 (mm)		0.03以下	0.15				
トランスミッション	使用オイル	一般仕様	スズキ4輪ギヤオイル# 90 (GL-4)					
		寒冷地仕様	スズキ4輪ギヤオイルFN75W/85 (GL-4)					
	オイル量 (ℓ)		1.2					
	オイル交換時期		2年ごと又は20000km走行ごと					
	ギヤとシンクロナイズリソグのすき間 (mm)		1.0	0.5				
	シンクロナイズリングのキー溝 (mm)	ロースピード	9.6	10.0				
		2nd,3rd,4thギヤ	9.6	10.0				
		オーバートップ	9.6	10.0				
	シンクロナイズスリーブとシフトフォークのすき間 (mm)		0.2~0.6	1.0				
シフトフォーク爪部の厚さ (mm)		5.6~5.8	5.1					
オートランスミッション	使用オイル		-					
	オイル量 (ℓ)	全容量	-					
		交換時オイル量	-					
	オイル交換時期		-					
	油圧基準値 (kg/cm ²) {ライソ圧}	セレクトレバー位置	R	N	L	D(1速)	D(2速)	D
		アイドル回転時	-	-	-	-	-	-
ストール回転時		-	-	-	-	-	-	
トランス	使用オイル	一般仕様	スズキ4輪ギヤオイル# 90 (GL-4)					
		寒冷地仕様	スズキ4輪ギヤオイルFN75W/85 (GL-4)					
	オイル量 (ℓ)		0.8					
オイル交換時期		2年ごと又は20000km走行ごと						
デファレンシャル	使用オイル	一般仕様	スズキ4輪スーパーギヤオイル# 90 (GL-5)					
		寒冷地仕様	スズキ4輪スーパーギヤオイル75W/80 (GL-5)					
		LSD仕様	スズキLSDギヤオイル# 90 (GL-5)					
	オイル量 (ℓ)		フロント,リヤ:1.5					
	オイル交換時期		2年ごと又は20000km走行ごと					
	ベベルギヤのバックラッシュ (mm)		0.2	-				
	ベベルピニオンベアリングのプレロード (kg・cm)		フロント:5~13, リヤ:9~17					
プロペラシャフトの振れ (mm)		0.8	1.3以下					

ステアリング関係

項 目		基準値	使用限度	摘 要	
フ ロ ン ト ホ イ メ ー ル	ト ー イン (mm)	4±2	-		
	キ ャ ン バ	1° 00' ±1°	-		
	キ ャ ス タ	2° 30' ±1°	-		
	切 れ 角	内 側	.29°	-	
		外 側	26°	-	
サイドスリップ (m / km)		IN2.0~OUT1.0	-		
ステアリングホイール外周上の遊び (mm)		0~30	-		
ステアリングピニオン回転起動トルク (kg・cm)		7.5~13.0	-		

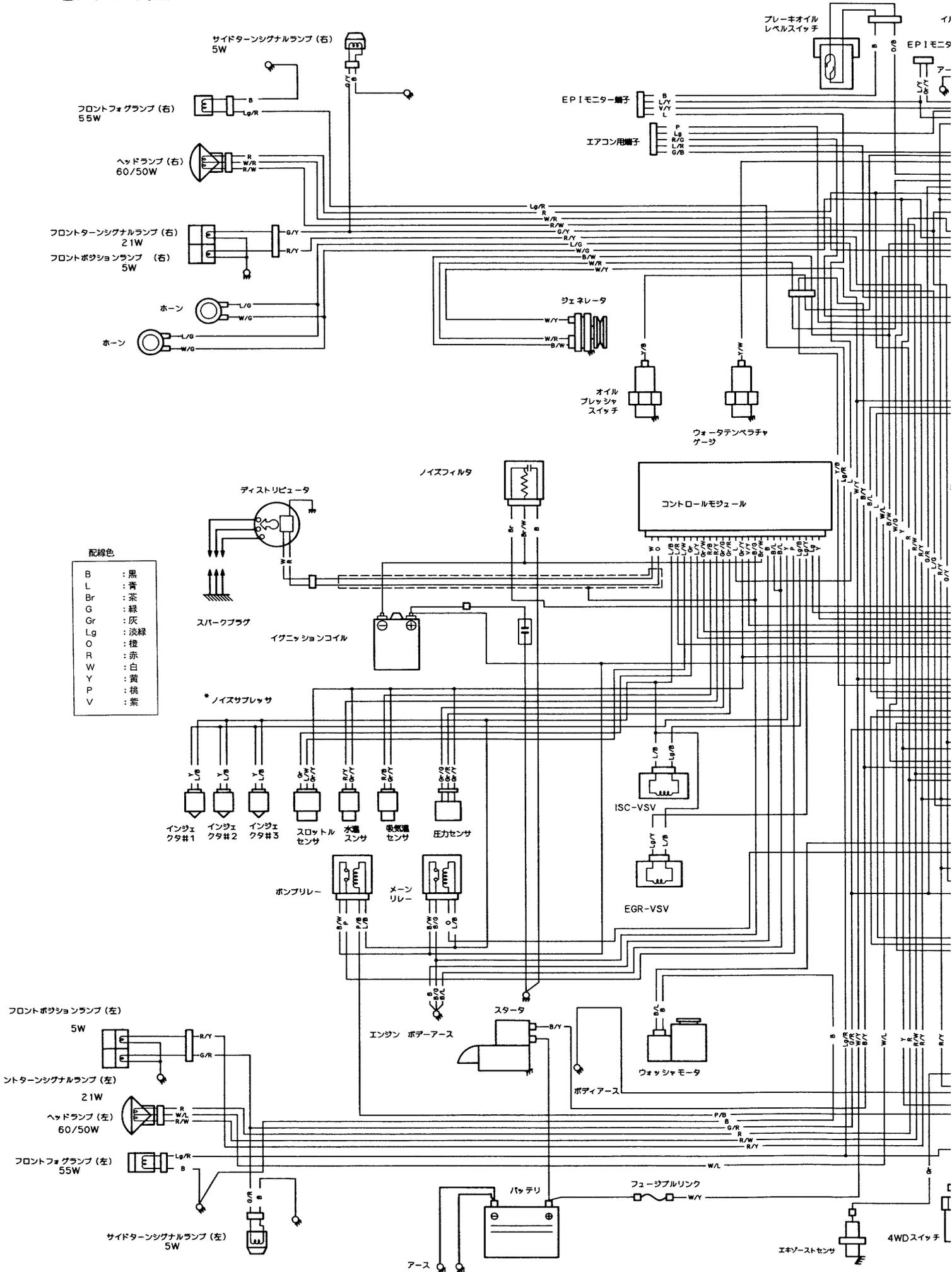
制動装置関係

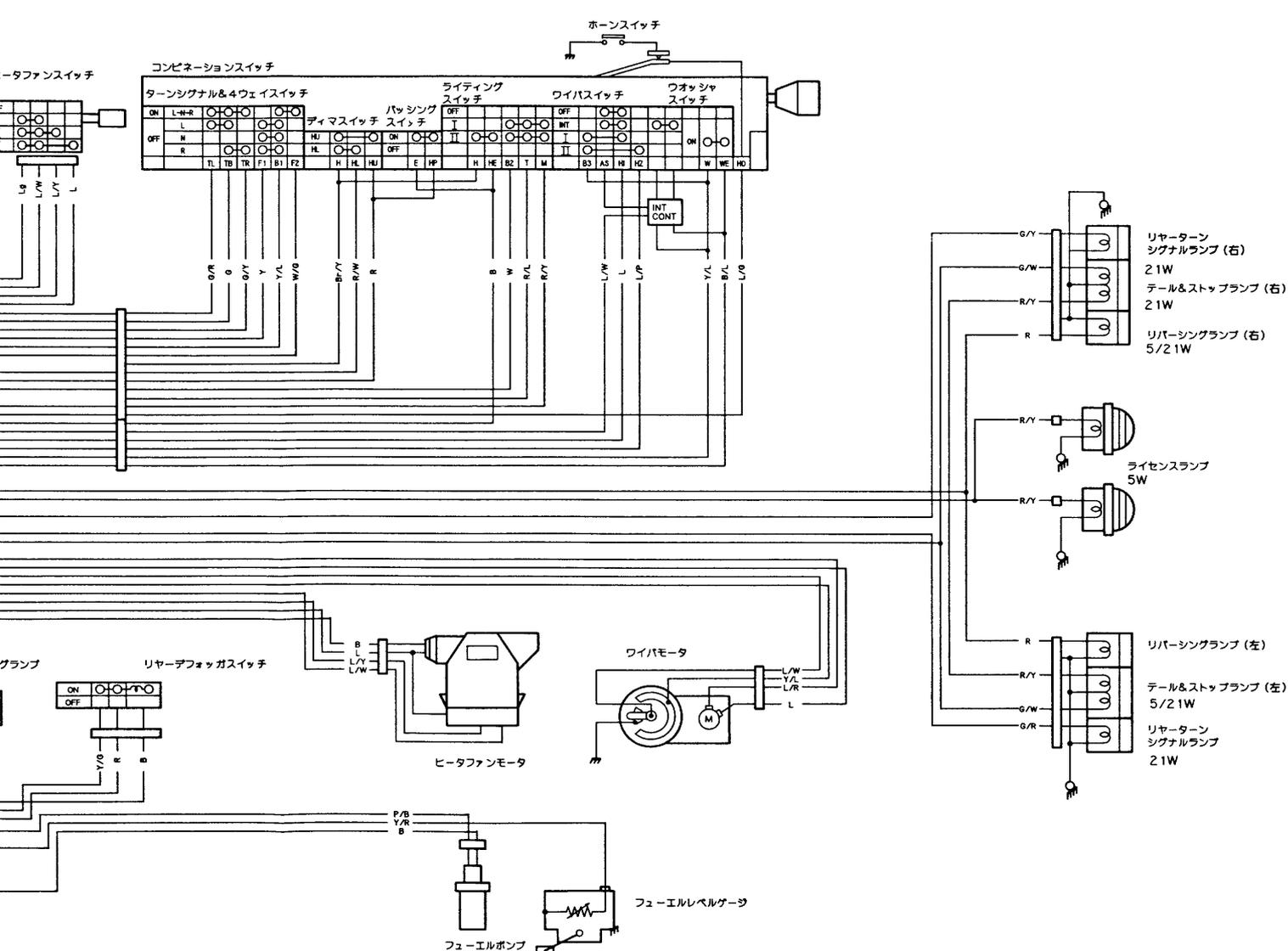
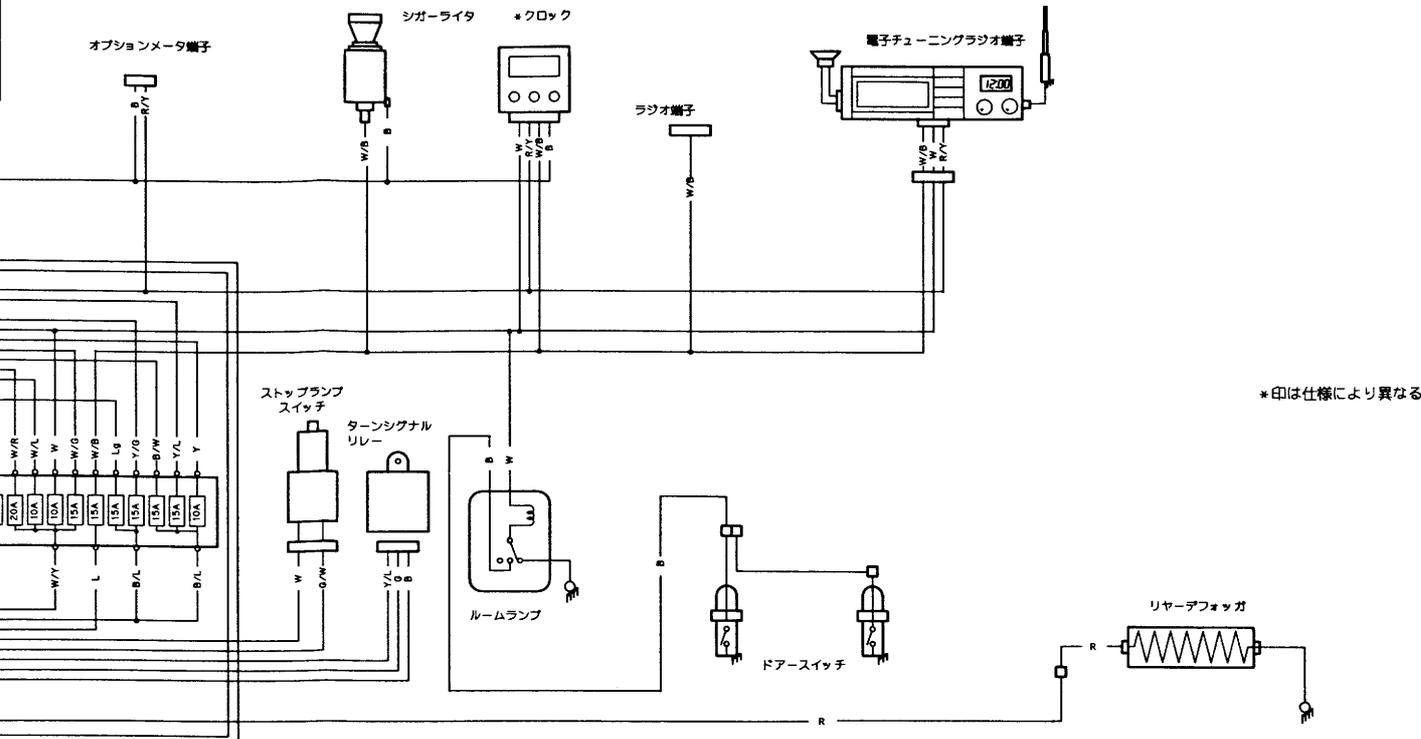
項 目		基準値	使用限度	摘 要	
ブレーキ ペダル	遊 び (mm)	1~8	-		
	床板とのすき間 (mm)	75以上	-	踏力30kgで踏込時	
マスタ シリンダ	マスタシリンダ内径 (mm)	22.2	-		
デ イ ス ク ブ レ ー キ	ホイールシリンダ内径 (mm)	51.1	-		
	パッド厚さ (mm)	10.0	3.0		
	デ ィ ス ク	厚さ (mm)	10.0	8.0	
		振れ (mm)	-	0.15以下	外周囲で測定
ド ラ ム ブ レ ー キ (フ ロ ン ト)	ホイールシリンダ内径 (mm)	-	-		
	ブレーキドラム内径 (mm)	-	-		
	ブレーキライニング厚さ (mm)	-	-		
	ドラムとライニングのすき間 (mm)	-	-		
ド ラ ム ブ レ ー キ (リ ヤ)	ホイールシリンダ内径 (mm)	22.2	-		
	ブレーキドラム内径 (mm)	220	222		
	ブレーキライニング厚さ (mm)	5.0 (7.0)	1.0 (3.0)	() は裏金を含む	
	ドラムとライニングのすき間 (mm)	-	-	自動調整式	
パ ー キ ン グ ブ レ ー キ	引 き し ろ (ノッチ)	3~6	-	操作力20kgのとき	
	ブレーキドラム内径 (mm)	-	-		
	ブレーキライニング厚さ (mm)	-	-		
	ドラムライニングのすき間 (mm)	-	-		

タイヤ・ホイール関係

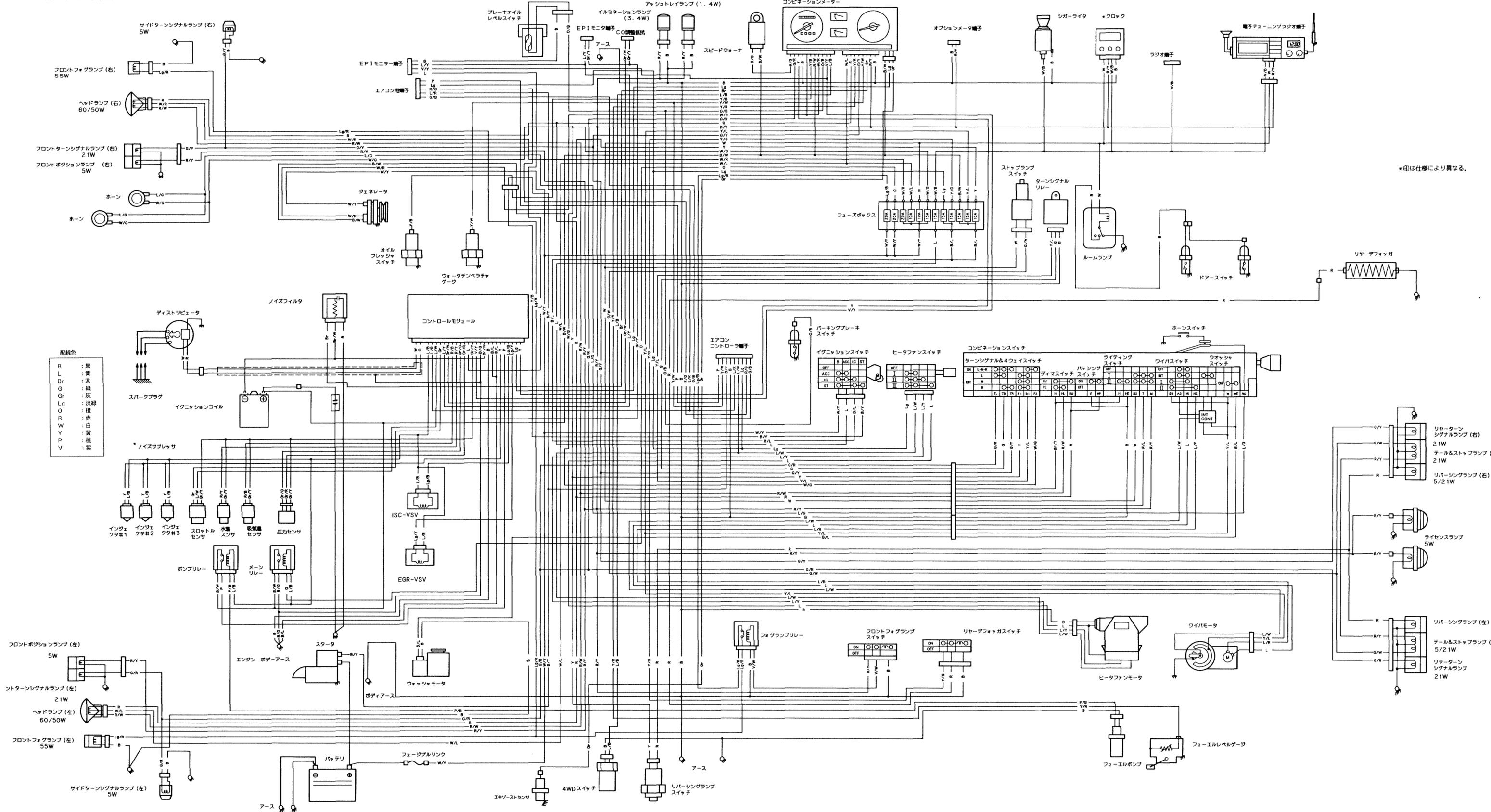
項 目		基 準 値	使用限度	摘 要
ホイール	ベアリング軸方向の遊び (mm)	フロント	0.05以下	-
		リヤ	0~0.8	-
	リムの振れ (mm)	1.2以内	-	リムの外周で測定
	リムの寸法 (mm)	オフセット22 ピッチサークル139.7		
タイヤ	残溝 (mm)	-	1.6以上	
イ	規格	前輪	6.00-16-4PR 175/80R16	
		後輪		
ヤ	空気圧 (kg/cm ²)	前輪	1.4	
		後輪	1.8	

電気配線図 JA11Cターボ, JA11Vターボ





電気配線図 JA11Cターボ, JA11Vターボ



配線色

B	: 黒
L	: 青
Br	: 茶
G	: 緑
Gr	: 灰
Lg	: 淡緑
O	: 橙
R	: 赤
W	: 白
Y	: 黄
P	: 桃
V	: 紫

*印は仕様により異なる。

- リヤターンシグナルランプ (右) 21W
- テール&ストップランプ (右) 21W
- リバーシングランプ (右) 5/2 1W
- ライセンスランプ 5W
- リバーシングランプ (左) 21W
- テール&ストップランプ (左) 5/2 1W
- リヤターンシグナルランプ 21W

スズキ株式会社

ジムニー660
サービスマニュアル

1991年6月発行

発行所 スズキ株式会社

サービスグループ
浜松市高塚町300
郵便番号：432-8611

不許複製

P73 ㊄

